

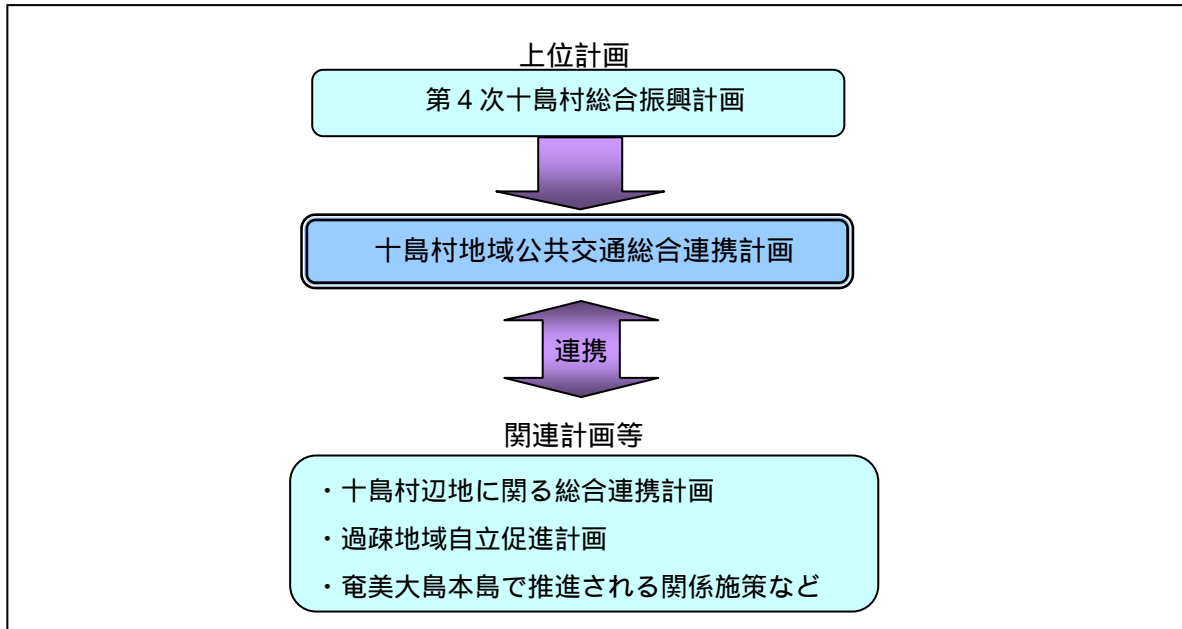
第6章 十島村地域公共交通総合連携計画

6 - 1 計画の位置づけ

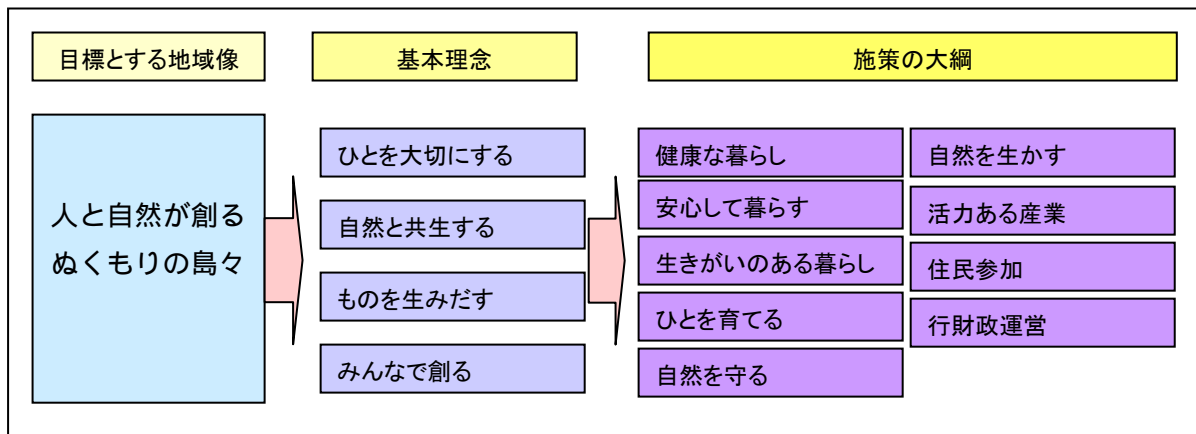
「十島村地域公共交通総合連携計画」は、平成19年10月1日に施行された地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を根拠法令とし、十島村の公共交通の現況と課題を踏まえ、公共交通施策を推進するための基本計画として位置づけるものである。

本計画では、屋久島と奄美大島の間に点在する7つの有人島からなり、南北130kmと日本で最も長い自治体である十島村の生命線ともいえる十島航路の利用を促進し、島々の衰退に歯止めをかけるもので、「第4次十島村振興計画」で示されている公共交通施策の基本的な方針や関連する他計画、奄美大島本島で推進される関係施策と連携を図りながら推進する。

【十島村地域公共交通連携計画の位置づけのイメージ図】



【第4次十島村総合振興計画の概要】



資料：第4次十島村総合振興計画

6 - 2 計画の基本方針

十島航路は、村民の通院や買物など日常生活を支える移動手段としてはもとより、物流や観光などの社会基盤を支える唯一の海上交通である。しかしながら、外海離島にある7つの有人島を結ぶ長大航路であることから、毎年多額の欠損が発生するなど航路運営は非常に厳しい状況となっている。十島村では、各種イベントやツアーの開催による航路収入の増加策や減速運航による費用抑制策など、これまで航路の経営改善に向けた取組みを行っているものの、現在の名瀬便1便、宝島便1便の運航形態では航路利用に制約があることから、その取組みも限界に達している。

十島村が推進する「島民一人ひとりが希望を持てる村づくり」の実現にあたっては、村民が将来的に島に定住し続け、安心・安定した生活を営むことが必要であり、そのためにも、十島村の地域特性にあった継続的で効率的な航路運航の確立が重要である。また、今後の離島航路の維持・活性化のためには、地域公共交通関係者の協調・連携に加え、歴史的につながりの深い奄美大島本島との協調・連携による交流人口の増加が十島航路の維持・活性化において必要である。

以上の点を踏まえ、本計画では以下の3つの基本方針のもとに、具体的な実施事業を策定するものである。

【基本方針】

(1) 名瀬便増便による十島航路の利便性向上

十島航路は村民の日常生活や物流、観光などの社会基盤を支える唯一の海上交通であり、村民の生活を維持するための生命線となっている。村民が島内で安心して生活を送るためには、今後、医療・福祉等の基本的なサービスの享受が可能な最低限の交通インフラの確保を図ることが重要である。そのため、名瀬便増便により、特に宝島、小宝島、悪石島等、村の南に位置する島々の航路の利便性向上を図る。

(2) 広域交流による航路需要の創出

十島村では人口減少がさらに進むと村民による航路利用も同じく減少すると予想される。そのため、定住促進策（U・Iターン者の受入促進など）や交流人口の拡大（各島島内受入体制の充実、島内ガイドの育成など）につながる取組みを推進していくことで新たな航路需要を創出するなど、広域的な交流による航路利用促進に向けた取組みを行う。

(3) 十島航路の収益向上

航路を取り巻く環境の変化により、航路経営は厳しい状況となっており、安定的な航路運営を見据えた収支改善が必要である。そのため、航路維持に向けた効率的な航路運営を検討するとともに、航路収入の増加策など十島航路の収益向上に向けた取組みを行う。

6 - 3 計画の目標

基本方針に基づいて事業を実施し、新たな航路需要を創出するため、効果的な利用促進策を進めることを計画目標として以下の3つを定める。なお、達成状況を年度ごとに検証し、次年度の計画に反映させることとする。

【計画の目標】

- (1) 十島航路全体の利用者数の増加
- (2) 観光振興による広域交流の促進
- (3) 航路収支の改善

6 - 4 対象区域

対象区域は、十島村及び奄美市とする。

6 - 5 計画期間

平成22年度から平成24年度までの3年間を計画期間とし、各種事業に取り組む。名瀬便増便の効果が既存航路を含めた航路全体の利用増加に波及させ、名瀬便増便部分を含めた航路補助の実現を目指すものとする。

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
運航期間を設け回数限定で実証運航をスタート	22年度の事業評価を踏まえて、実証運航を実施	23年度の事業評価を踏まえて、実証運航を実施	名瀬便増便を継続的に実現 効果が実証された事業
地域公共交通総合連携計画			

6 - 6 目標を達成するために行う事業及び実施主体

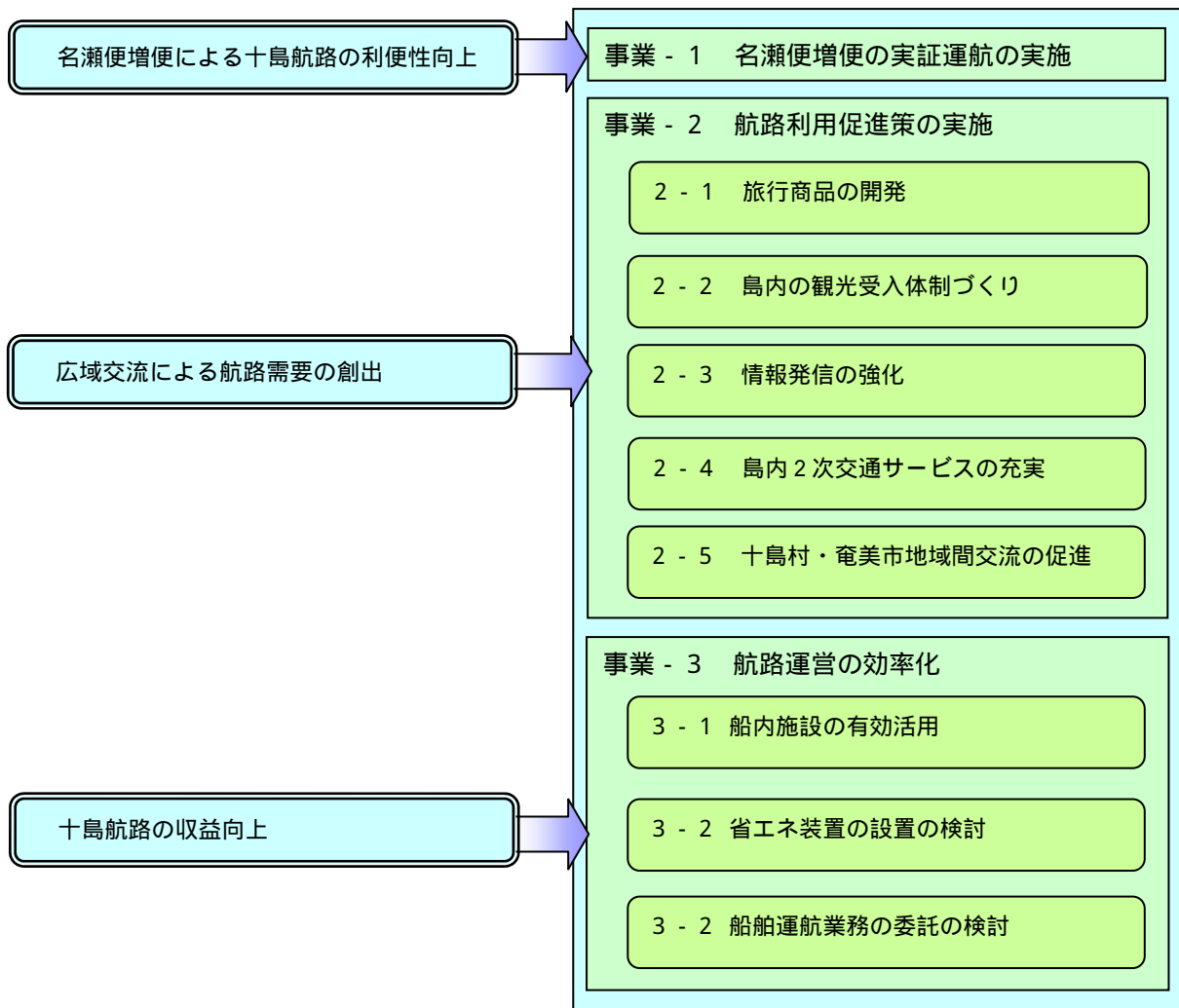
基本方針に基づき、目標達成に向けて以下の3つの事業を実施する。

実施主体は、船舶事業者である十島村、奄美市、名瀬港の管理者である鹿児島県とし、事業内容によっては十島村地域公共交通活性化協議会を通じて民間事業者に委託する。

各事業にはそれぞれ実施期間を設定しており、年度ごとに事業効果を検証し、その結果を翌年度の事業運営に反映させていくものとする。

【基本方針】

【目標達成に向けた事業】



【目標達成に向けた事業及び事業ごとの実施主体及び実施期間】

事業内容	実施主体	実施期間		
		21年度	22年度	23年度
事業 - 1 名瀬便増便の実証運航の実施	十島村	→	→	→
事業 - 2 航路利用促進策の実施				
2 - 1 旅行商品の開発	十島村 民間事業者	→	→	→
2 - 2 島内の観光受入体制づくり	十島村 十島村民	→	→	→
2 - 3 情報発信の強化	奄美市 十島村	→	→	→
2 - 4 島内外2次交通サービスの充実	十島村 民間事業者	→	→	→
2 - 5 十島村・奄美市の地域間交流の促進	奄美市 十島村 十島村民	→	→	→
事業 - 3 航路運営の効率化				
3 - 1 船内施設の有効活用	十島村	→	→	→
3 - 2 省エネ装置の設置の検討	十島村	→	→	→
3 - 3 船舶運航業務の委託の検討	十島村 民間事業者		→	→

事業 - 1 名瀬便増便の実証運航の実施

本事業は、平成 21 年度の試験運航やアンケート調査結果から得られた課題を踏まえて、名瀬～宝島間の増便の実証運航を実施するものである。なお、実証運航の実施に当たっては、地域間交流やツアー等の実施により、航路の利用促進を図り、採算性の確保に努める。また、事業効果を検証するため、航路利用者を対象にアンケート調査等を実施し、実証運航区間の満足度等を把握する。

【具体的な事業内容】

事業 - 1 - 1 名瀬便増便の実証運航の実施			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・村民の利便性向上 ・名瀬港からの新たな航路需要の創出 		
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・十島村 		
事業概要	<p>〔平成 22 年度の実証運航〕</p> <p>運航区間 : 名瀬港～前籠港(宝島)</p> <p>運航時期 : 海域が比較的穏やかな 6 月から 10 月</p> <p>運航回数 : 10 航海</p> <p>運航予定日:平成 22 年度のスケジュールをベースに具体的に検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度、24 年度の実施時期、運航回数については、平成 22 年度の実証運航結果を踏まえて検討を行う。 ・事業の実施過程では航路利用者を対象にアンケート調査を実施し、名瀬便増便の利用状況や満足度等を検証する。 		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・6 月～10 月に 10 航海、名瀬便増便の実証運航の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度の実施結果を踏まえて、名瀬便増便の実証運航の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度の実施結果を踏まえて、名瀬便増便の実証運航の実施

事業 - 2 航路利用促進策の実施

本事業は、名瀬～宝島間の増便の実証運航区間及び十島航路全体の利用促進を目的に実施するものである。名瀬港～前籠港（宝島）間の実証運航区間においては、新たな航路需要を創出する必要があり、十島村及び奄美大島をつなぐ旅行商品の開発や地域間交流の促進を、十島村と奄美市が連携して積極的に行う予定である。

また、奄美大島内において、十島航路の認知度が不足していることから、実証運航に関する情報発信についても併せて行う必要がある。更に、持続的に航路利用促進を図るためには、島内の受入体制構築が必要であり、行政と住民との連携についても強化しながら事業を実施する予定である。

事業 - 2 - 1 旅行商品の開発			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・宝島～名瀬間航路の需要創出 ・奄美大島と十島村との連携促進 		
実施主体	・十島村、民間事業者（旅行代理店）		
事業概要	<p>旅行商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名瀬港発の航路需要の創出に向けて、十島村と奄美大島をつなぐ新たな旅行商品の開発を行う。具体的な旅行商品の開発は旅行代理店と連携して検討を行う。平成 22 年度については、ターゲットを、奄美大島住民、東京からの観光客、の 2 つに絞り、奄美大島と宝島を組み合わせたツアー等の旅行商品を開発する。 ・平成 22 年度のツアー結果を踏まえて、他の島のツアー商品等を検討する。 ・事業効果については、ツアー客を対象にアンケート調査を実施し、満足度等を検証する。 		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・奄美大島住民、東京からの観光客にターゲットを絞った旅行品の開発 		→

【羽田発着2泊3日 奄美・十島村（宝島）ツアーイメージ】

ターゲット：東京在住者

日程：2泊3日

1日目（金）

08:30 羽田空港 発
2時間25分

10:55 奄美空港 着
到着後、奄美大島島内観光
🍴 昼食

あやまる岬、奄美パーク（奄美の郷と田中一村記念館等見学）、浜千鳥焼酎工場見学

🍴 夕食（市内レストラン又は各自）
フェリーとしまへ移動（フェリー泊）

04:00 奄美大島名瀬 発

2日目（土）

3時間

07:00 宝島 到着
🍴 朝食（民宿）
島内観光

イギリス坂、荒木崎灯台、観音洞、牧場、キャンプ場等を巡る

午後はオプションツアー

🍴 夕食（民宿）
夕食後、住民の方と交流会
宝島 泊

3日目（日）

🍴 朝食（民宿）
自由行動、オプションツアー
昼食（民宿）

13:20 宝島発フェリーで奄美大島へ
3時間10分

16:30 奄美大島名瀬 着 空港へ
1時間

17:30 奄美空港 着

19:00 奄美空港 発
2時間25分

21:05 羽田空港 着



【羽田発着3泊4日 奄美・十島村(宝島) ツアーイメージ】

ターゲット：東京在住

日程：3泊4日

1日目(木)

08:30 羽田空港 発

2時間25分

10:55 奄美空港 着

到着後、奄美大島島内観光

あやまる岬、奄美パーク(奄美の郷と田中一村記念館等見学)、浜千鳥焼酎工場見学

🍴夕食(市内レストラン又は各自)

奄美大島名瀬 泊

2日目(金)

🍴朝食(ホテル)

大浜海浜公園、歴史民俗資料館、住用マングローブパーク、ホノホシ海岸、ヤドリ浜を見学

🍴夕食(各自)

フェリーとしまへ移動(フェリー泊)

04:00 奄美大島名瀬 発

3日目(土)

3時間

07:00 宝島 到着

🍴朝食(民宿)

島内観光

イギリス坂、荒木崎灯台、観音洞、牧場、キャンプ場等を巡る

午後はオプションツアー

🍴夕食(民宿)

夕食後、住民の方と交流会

宝島 泊

4日目(日)

🍴朝食(民宿)

自由行動、オプションツアー

🍴昼食(民宿)

13:20 宝島発フェリーで奄美大島へ

3時間10分

16:30 奄美大島名瀬 着 空港へ

1時間

17:30 奄美空港 着

19:00 奄美空港 発

2時間25分

21:05 羽田空港 着



【具体的な事業内容】

事業 - 2 - 2 島内の観光受入体制づくり			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・島内の受入体制の整備 ・住民が一体となった観光事業の推進 		
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・十島村 		
事業概要	<p>ワンストップ機能を有した観光窓口の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内観光の受付・手配業務までを一括して行うなどのワンストップ機能を有した観光窓口を設置する。 ・平成 22 年度は、まずはモデルケースとして宝島において「宝島アイランドツーリズム（仮称）」を立ち上げ、旅行代理店と連携する。 ・「宝島アイランドツーリズム（仮称）」ではオプションツアーを開発、実施する。また、ツアー客に関する情報をストックし、リピーター増加に向けた活動に取り組む。 ・平成 22 年度の事業の実施結果を踏まえて、小宝島、悪石島などにおいても同様の観光窓口の設置を検討する。 <p>[宝島アイランドツーリズム（仮称）のイメージ図]</p> <p>The diagram illustrates the 'Treasure Island' (宝島) tourism system. At the top, 'Administration' (行政) and 'Travel Agency' (旅行代理店) are connected to the island system via 'Partnership' (連携) arrows. Inside the island system, 'Residents (Municipality)' (住民(自治会)) and 'Businesses (Inns)' (事業者(民宿)) are connected to the 'Treasure Island Tourism (Provisional Name)' (宝島アイランドツーリズム(仮称)) box. The box lists services like reception, optional tours, and information management. 'Visitors' (来訪者) are shown on the right.</p>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・宝島において観光窓口の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・宝島以外の島における観光窓口の設置の検討 	

参考事例：長崎県小値賀町（離島の観光振興の取組み）～ アイランドツーリズム

〔取組みの背景〕

- ・位置：長崎県佐世保市からフェリーで約2時間30分の五島列島の北端
- ・人口：ピーク時には1万人を超えていたが、現在は3千数百人にまで減少

〔活性化のコンセプト〕

- ・「島の自然や暮らしをそのまま活かした体験型・滞在型観光による地域振興」

〔活性化に向けた取組み〕

- ・「おぢかアイランドツーリズム協会」を設立

小値賀島に関する旅行の拠点として、各種インフォメーションから受付・手配業務までを一括して行う、ワンストップ機能を有した組織を立ち上げる。

- ・アイランドツーリズムをテーマとした、体験型・滞在型観光やエコツーリズム、民泊体験などの実施
- ・U・Iターン者と住民が一体となった民泊事業を推進
- ・小値賀島・野崎島（無人島）をフィールドとした体験プログラムの提供

<主な体験プログラム>

シーカヤック・トレッキング・シュノーケリング・磯遊びなどの自然体験

歴史文化・観光案内

民泊・島暮らし体験

島での文化・歴史体験（漁業体験・農業体験・味覚体験・伝統工芸体験）

<これらのプログラムを基に様々な事業を実施>

「子ども自然王国・宝島」

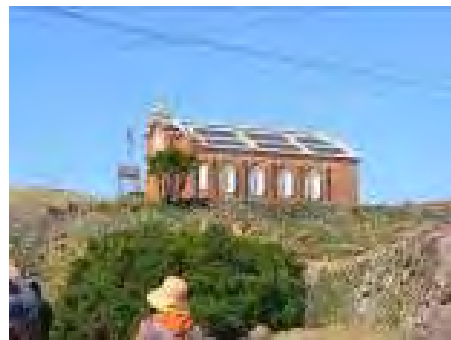
春・夏・冬休みを利用した中長期の子供自然体験キャンプ

「島らいふ子ども丸ごと探検隊」

3連休に対応した、民泊と自然体験活動を組み合わせたツアー（通年開催）

「子ども農山漁村交流プロジェクト」への参加

農林水産省・総務省・文部科学省の連携施策「子ども農山漁村プロジェクト」の先導型モデル地域の認定を受ける。



資料：小値賀町

参考事例 : 大分県姫島 ~ 水産業と観光の島

〔 取組みの背景 〕

- ・ 位置及び環境：瀬戸内海西端、国東半島から 6 k m の地点
- ・ 人口：少子高齢化が進行
- ・ その他：基幹産業である漁業の水産資源の減少、魚価の低迷及び後継者不足、生活様式の多様化、高度情報化による地域間競争への対応、環境問題への関心の高まり等、課題が山積

〔 活性化のコンセプト 〕

- ・ 「水産業と観光の島『姫島』の創出」(大分県離島振興計画及び姫島村総合計画の施策の一環、平成 18 年 10 月から平成 21 年 3 月までの期間、総務省ふるさと財団の助成事業を活用して事業展開)

〔 活性化に向けた取組み 〕

- ・ 人材育成プログラム「はりこもう会」や専門部会(観光部会、水産部会、広報部会)を設置
地域リーダーの育成
- ・ 旅行会社と連携したプログラムの実施
プログラムの評価を踏まえて、さらにモニターツアーを繰り返し実践。その結果、旅行者の受入を行うノウハウを蓄積
- ・ 観光との連携による水産業の振興
観光客・交流人口の増加、就労の場の確保
- ・ 地産の食材による商品開発(車えびしゅうまいなど)
- ・ 専門家を交えた体験プログラムの開発

〔 具体的な体験プログラム 〕

ふれあい村あるき・島のおばあちゃんと作るかんころ餅づくり体験
アサギマダラエコウォーク・姫島イモニナ物語
手ゴチ網体験・磯遊び(子ども向けプログラム)
姫島村 8 8 箇所めぐり(検証中)・観光船



資料：姫島村

事業 - 2 - 3 情報発信の強化			
事業目的	・十島航路及び十島村の認知度向上		
実施主体	・十島村、奄美市		
事業概要	<p>パンフレット作成</p> <p>・十島航路の名瀬便増便、十島村の地域情報やイベント等を伝えるパンフレットの製作を行う。なお、作成したパンフレットは、旅行代理店や奄美市内ホテル、観光協会等に設置し、配布する。</p> <p>十島村及び奄美市のホームページによる情報発信</p> <p>・十島村及び奄美市のホームページを活用し、名瀬便増便等の情報発信を行う。</p>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
パンフレットの作成	<ul style="list-style-type: none"> 十島航路の名瀬便増便等のパンフレット作成 パンフレットの設置、配布 		→
十島村及び奄美市のホームページを活用した情報発信の実施	<ul style="list-style-type: none"> 十島村及び奄美市ホームページを活用し、名瀬便増便等の情報発信 		→

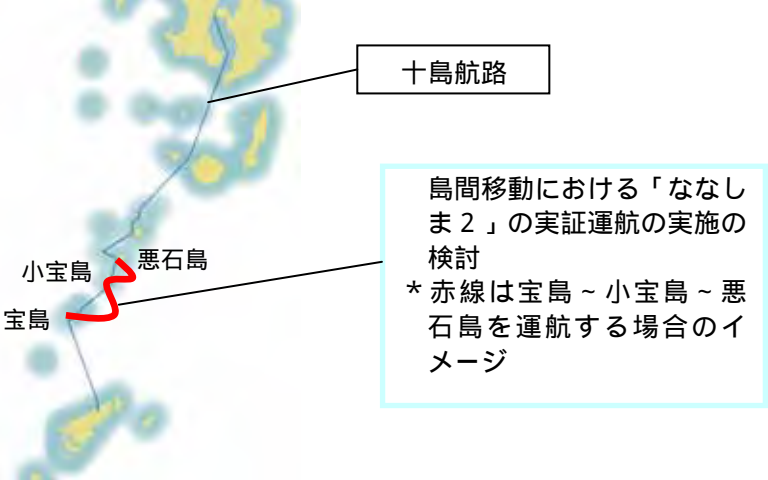
「参考：三島航路における黒島～枕崎間航路の実証運航に関するパンフレット」

黒島～枕崎間航路の実証運航に関する案内

三島村の観光資源等に関する案内

枕崎市内の宿泊施設、医療施設等の案内

資料：三島村新交通ネットワーク協議会

事業 - 2 - 4 島内外 2 次交通サービスの充実			
事業目的	・島内外の 2 次交通サービスの充実		
実施主体	・十島村、民間事業者		
事業概要	<p>電動機付き自転車の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクルとして、電動機付き自転車を導入する。平成 22 年度はレンタサイクルを 10 台導入し、次年度以降は、前年度の利用結果を踏まえて、増台するかどうかを検討する。レンタサイクルの管理は民間へ委託する。 ・事業効果については、利用状況及び利用者の満足度等から検証する。 <p>島間移動における「ななしま 2」の活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島間移動において、日常的に「ななしま 2」を活用できないかを検討する。住民や航路利用者等からの要望が多い場合、実証運航の実施を検討する。 ・実証運航時は、利用状況や利用者の満足度等を把握し、事業効果を検証する。 <p>[島間移動における「ななしま 2」の活用の検討]</p>  <p>島間移動における「ななしま 2」の実証運航の実施の検討 * 赤線は宝島～小宝島～悪石島を運航する場合のイメージ</p>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
電動機付き自転車の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・電動機付き自転車の導入（10 台） ・次年度以降、増台すべきかを検討 		→
島間移動における「ななしま 2」の活用の検討	→ <ul style="list-style-type: none"> ・島間移動における「ななしま 2」の実証運航の実施の検討 	→ <ul style="list-style-type: none"> ・実証運航の実施 * 平成 22 年度に、実証運航の実施を決定した場合 	→ <ul style="list-style-type: none"> ・実証運航の実施 * 平成 23 年度に、継続して実証運航を実施することを決定した場合

事業 - 2 - 5 十島村・奄美市の地域間交流の促進			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・十島村と奄美市の市民間の交流促進 ・宝島～名瀬間航路の利用促進 		
実施主体	・十島村、十島村民、奄美市		
事業概要	<p>十島村民と奄美市民の地域間交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十島村民と奄美市民が双方のイベントに参加し、地域間交流を促進することを通じて、宝島～名瀬間航路の利用促進を図る。 <p>【交流例】</p> <p>十島村の8月踊りに奄美市民が参加 奄美まつりに十島村民が参加 など</p>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	<p>・十島村民と奄美市民が双方のイベントに参加し、交流を促進する。</p>		

[参考：奄美市及び笠利町の主な行事（平成 21 年度）]

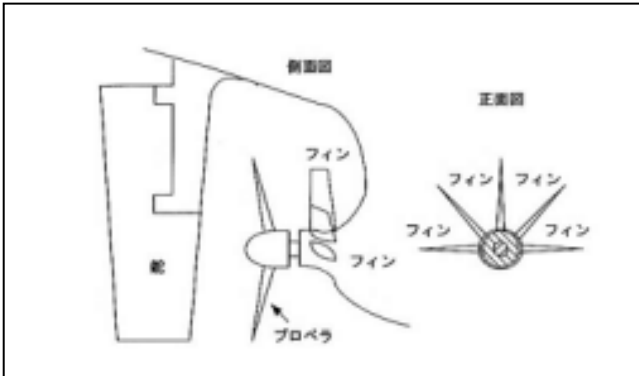
月	日	行事名
5	31	第54回笠利地区バレーボール大会
7	24・25	六月灯
	30～	第45回奄美まつり
8	～2	〃
9	1～3	旧盆
10	16	招魂祭式典
	18	第104回招魂祭相撲大会
	22	奄美市笠利高齢者スポーツ大会
	25	第54回笠利地区体育祭
11	8	第2回奄美市民体育祭
	22	第48回奄美市笠利町内一周駅伝競走大会
	29	オンオンスーパーベースボール
12	13	第18回奄美市笠利まちおこしフェスティバル
1	5	笠利地区成人式
	5	緋の日

資料：奄美市及び笠利町

事業 - 3 航路運営の効率化

本事業は、十島航路全体の収益向上を図るために実施するものである。十島航路は南北 415 km の長大航路であることから、省エネ装置等の導入により燃費改善が図られれば、運航経費の大幅な圧縮可能性が期待できる。また、船内の遊休施設を改修し、収入向上や航路利用者の利便性向上に向けて有効活用を図ることも重要と考える。上記はハード整備を伴うものであり、導入については相当のコストが生じるため、十分に検討し実施する必要がある。併せて、中期的には、航路運営体制についても見直し、航路運営の効率化、航路サービスの向上を図る予定である。

事業 - 3 - 1 船内施設の有効活用			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 船内施設の有効活用による収益向上 ・ 利用者の利便性の向上 		
実施主体	・ 十島村		
事業概要	<p>サロンスペースの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロンスペースを改修して2部屋に分割し、プライベートルーム（有料）として開放することを検討する。また、授乳室、更衣室等としての活用も検討 <p>指定寝台スペースの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定寝台スペースの1部屋を改修し、バリアフリー型ベッドの設置を検討 <p>[船内施設の有効活用イメージ]</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>サロンスペース</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>指定寝台スペース</p> </div> </div>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p>指定寝台スペースの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定寝台の1部屋を改修 ・ バリアフリー型ベッドの設置 </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p>サロンスペースの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロンスペースを2分割に改修 ・ プライベートルームや授乳室等として活用 </div> </div>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な改修方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンスペース改修等 ・ 指定寝台スペース改修等 	

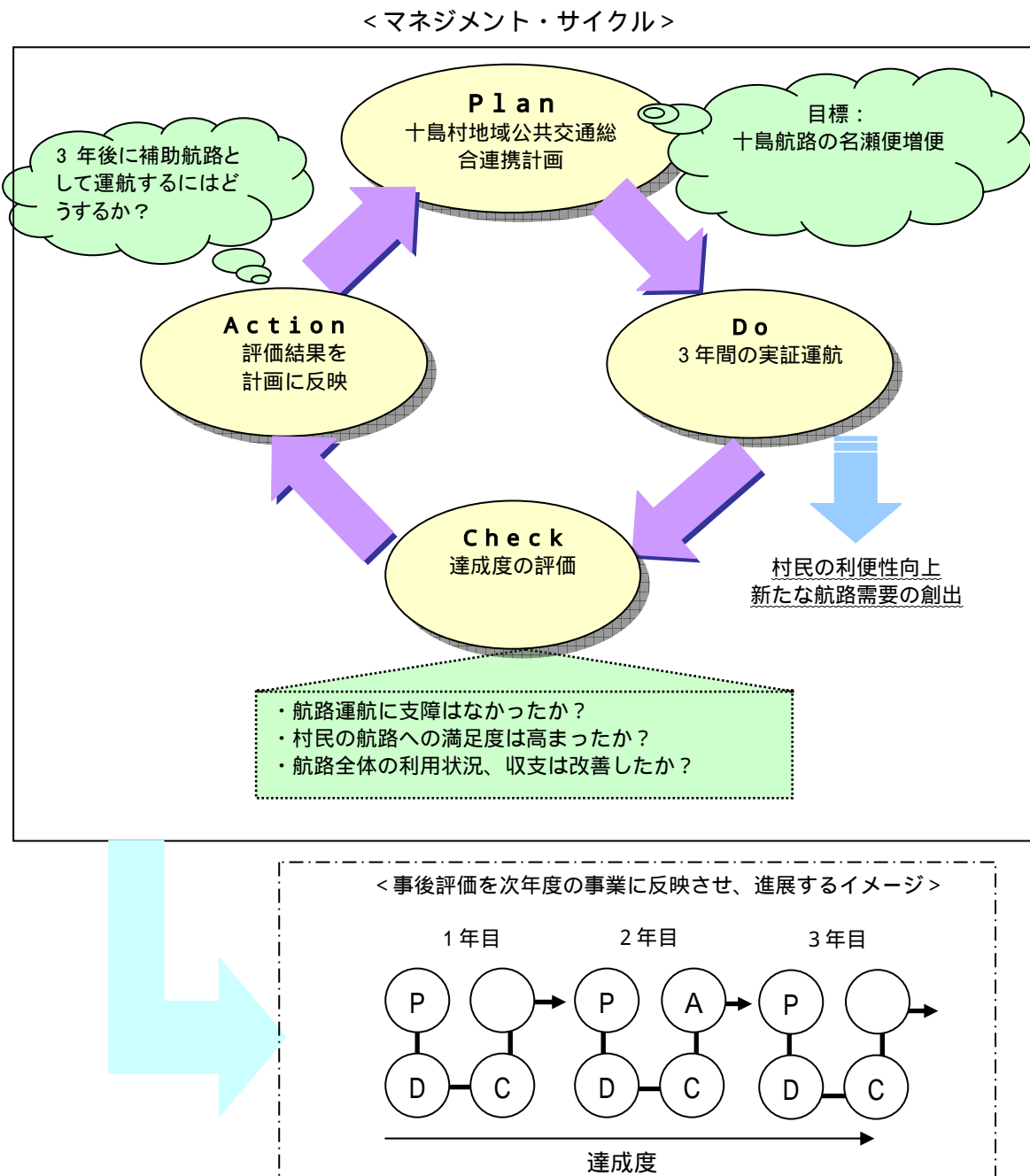
事業 - 3 - 2 省エネ装置の設置の検討			
事業目的	・船体に省エネ装置を設置し燃費向上を図る。		
実施主体	・十島村		
事業概要	<p>省エネ装置（「フレンドフィン装置」）の設置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度は、省エネ装置「フレンドフィン装置」を導入すべきかを検討する。具体的には、甕島商船など、既に「フレンドフィン装置」を設置している船舶における省エネ効果を把握する。その結果を踏まえて、フェリー「としま」において、「フレンドフィン装置」を設置すべきかを検討する。 ・「フレンドフィン装置」の設置を決定した場合、平成 23 年度以降、「フレンドフィン装置」の設置に向けて具体的に取り組む。 <p>フレンドフィン装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船尾の流れを制御し、少ない主機出力で、プロペラがより大きな推力を出しやすくする装置。同じ速度で少ない燃費での航行が可能になる。 ・一般的な省エネ効果としては、4%～8%程度の効果がある。但し、対象船型で個別に精査が必要。 <p>[フレンドフィン装置図]</p>  <p>資料：MHI マリンエンジニアリング</p>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ装置の設置の検討（省エネ装置を設置している他の船舶状況を把握） 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ装置の設置に向けた準備 *平成 22 年度において、省エネ装置を設置することが決定した場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ装置の設置 *平成 22 年度において、省エネ装置を設置することが決定した場合

事業 - 3 - 3 船舶サービス部門の委託の検討			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間事業者との連携による航路運営の効率化 ・ 航路サービスの向上 		
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十島村 		
事業概要	<p>船舶サービス部門の民間委託の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船舶サービス部門の見直しを行う。具体的には、現在の船舶サービス部門を民間事業者へ委託できないか検討する。 ・ 平成 23 年度から、民間事業者に委託する場合の方法について検討を行う。 <p>[船舶サービス部門の民間委託のイメージ図]</p>		
実施期間	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 船舶サービス部門の民間事業者への委託の検討 	→

6 - 7 事業効果の検証

本計画（Plan）に基づいて、平成 22 年度から平成 24 年度まで名瀬便増便の実証運航を行い（Do）、年度ごとにその結果を評価し（Check）、その評価結果を計画に反映させる（Action）、上記の事業マネジメントを 3 年間継続して行い、十島航路全体の利用者数の増加、観光振興による地域間交流の促進、航路収支の改善の達成を目指す。

また、事業を円滑に進めるため、計画作成段階で参画した主体と引き続き協議するとともに、地域全体、住民 1 人 1 人の関心を喚起するように努める。



- 資料 -

1. 十島村村民アンケート調査自由意見

居住地	年齢	性別	自由意見
口之島	60歳代	女性	人口数を増やすこと。人手不足で若い人が大変です。色々な活動に高齢者の方も出来るだけ参加してほしいです。
	30歳代	男性	十島村の柑橘類等もっとPRしてほしい。鹿児島入港が20:30をすぎると迎えがきて食事をする際に子供が小さいと厳しい。
中之島	20歳代	男性	GWや連休の時などは、フェリーとしまの運航日を柔軟に変えて、鹿児島へ出かけやすくしてほしい。せっかっくの連休があってもフェリーとしまの日程が合わないのがっかりしてしまう。
		女性	鹿児島空港に行く、離島を結ぶ空路が充実していますが、十島村への離発着はありません。もし、諏訪之瀬島の滑走路をもう一度利用できるようなすれば、そこからななしまを使って各島へ行き来できたら便利ではないかと思えます。予算等が難しいかと思えますが、交通手段が増えると十島村ももっと活性化されると思えます。
	30歳代	男性	十島で生活していけるだけの充分な収入のある仕事があれば、十島村の人口も増加し、それにともないフェリー利用者も増えると思えます。
			島民さん一人一人の気持ちで積極的に対応したらうまくいくと思えます。ない物からは何も出来ないと思えます。ないものねだりより、あるもので工夫したらいいと思う。すべては結果で決まります。
			島に公衆トイレを増設してほしい。各島の海の幸、山の幸を生かす。例えば、みかん農園やビワ農園を経営するとか、たけのこ狩りツアーを企画するとか。現状は観光するような所がない。
		住民の利便性の向上にさらに努力してほしい(運賃、運航時間、便数etc)。航路見直しについてそろそろ住民全体の協議の場を作る必要がある。平島、諏訪之瀬島の住民の問題ではない。仮に東之浜港が接岸可能になっても平島住民の反対は予想される。早めの対応が必要だと思う。	
	女性	ドック入りが2月だと、海が荒れる時期にフェリーとしまよりも小さい「みしま」が来るようになって欠航が多くなる気がします。この時期しかないのかもしれませんが、ドック入りの時期は船が来ないもんだとあきらめています。	
		今年7月に新たな港が完成しています。港は日照りも強くとても暑いです。季節の変わり目は風力もあつたりです。島民観光客はおおいに利用します。そこで3つのお願いがあります。待合所、売店、荷物置預かり、お手洗い場の公共施設を作る計画。二つ目は木を植えた緑化芝グリーンコート、土木造園事業計画をはじめると良いと思う。三つ目に西区温泉と近い港です。不審人物も登場。夜は覗き見されているような不安もあつたりです。みなと交番も建築してあると道路安全交通にも安全よりわかりやすい中之島になると思えます。	
	40歳代	男性	今後、皆既日食のPRをどのように生かすのか？今みるかぎり、十島の発展は見られない。
			フェリーとしまは欠航が多すぎて旅行の予定を組み難い。1ターン前に来ていた時はいつも「船が出るか？」が気になっていたし、予定を中止することもあつた。フェリーとしまの欠航率を現状の1/3~1/5に下げないと、普通の観光客は寄り付かないと思う。
十島村は観光で島を発展させるのではなく、1ターン者を多く呼び込むことで発展させるほうがよいと思えます。十島村のような所に永住したいと考える人は結構いるはず(30.40.50歳代)。ただ島外にいると島の情報はほとんど入ってきませんし、十島村の存在自体を知らない人も多いです(田舎暮らしやスローライフをしたいと思っている人たちの間でさえ)。観光は島のよさをなくしてしまうだけだと思えます。			

居住地	年齢	性別	自由意見
中之島	40歳代	男性	観光、産業における島の現金収入、雇用の確保を直ちにやらなければ「島」の発展と成長はありません。まず第一に行政にぶら下がる村政をやめ、どんな形にせよ島民が自力で現金収入が得られる体制を取る。ここで一番大事な事は、島民が自分の仕事に一心に打ち込める環境作りをしてやることである。特に通船などの余分な仕事は本来、船舶側、役場職員が全責任を負うべきである。この手の作業は公務員がすることにより島の人口を確保できます。最後に産業開発は知恵のないものや企画力のないため公務員では絶対に無理ですよ。
			口之島:セランマ温泉の露天から続く階段状の地形(さらに海岸までの散策コース)30度線及び赤瀬をセットにした案内板(かつての本国との境界、オヤダマ様の出発地)。中之島:朝日分岐のサイレンスピーカー、日の出への旧道、楠木への旧道、硫黄を出していたトンネル、航路開設と小学校設置の関係(文国村長が初代校長)、半世紀以上本土に遅れる。西区の杉林と発電所の関係。平島:平家の穴を「通して」外海をのぞく、というアングル(私の知る限り今年のカレンダーの写真がその最初のものだと思う)。
		女性	予算、お金のある島でしょうか?今あるもの、今できることを大切に、ありのままが一番無理なく、長続き出来るのではないのでしょうか。
			フェリーとしま自体が、単独で運航しているような今の状況ではなく、鹿児島発着を他の交通機関(鉄道、AIR他)に合わせることを考えてもらいたい。今は、必ず鹿児島に1泊しなくてはならない運航スケジュールです(鹿児島港入港が20:30)。観光客に利用してもらうには、利用しやすい交通手段になってもらいたい。金曜夜発はすごく良いが、日曜の夜8:30着だと翌日も休暇をとらなくてはなりません。また、観光客にはとしまに乗船する時に、入島税を払ってもらいたい(ex¥500でも)。
	50歳代	男性	上り便、悪石島～平島～諏訪之瀬島 下り便、諏訪之瀬～平島～悪石島 早めの運航を実行してほしい。フェリーとしま貨物運賃をもっと安くしてほしい。
		女性	島というのは都会に住む人にとってそれだけで魅力的ですが、せっかくやって来た島でその美しさ、素晴らしさに触れられないのでは…と思います。観光地化する必要はありませんが、美しい島を美しく保つ整備が必要です。道の伐採、浜(海の見える所)へ降りる為の道づくりなど。心を癒してくれる島であって欲しいと思います。
	60歳代	男性	安全第一はわかるが、欠航が多すぎる。四季、月々の各島の船内案内を。各島港に物産、お土産の販売所の設置。各島間の速やかな移動のため、ななしまの活用を。自然、温泉の活用。
		男性	観光を論じる前に、必要最低限の島内整備をすべきと存じます。例えば、竹が覆い被さり軽自動車での通行も難儀な七ツ山海水浴場への下り道路、雑草に埋もれた周遊道路のビューポイントなどの伐採…。汚れた皿では、どんな名シェフが盛り付けても食指が動かないのと同様、世界屈指の自然郷といえども受け皿が整備されていないリゾートに観光客の足はリピートしません。
	70歳以上	男性	特産品の販売ルート構築が必要だと思う。
		女性	塩づけ竹の子、バナナを売り出すことが良いと思う。

居住地	年齢	性別	自由意見
平島	20歳代	女性	大変だと思うが、船便を増やして欲しい。病院に行きたくても仕事のことを考えるとなかなか行けない。十島村がもっと有名になって、いろいろとうるおってほしい。
	40歳代	男性	もっと各島で情報発信して、リピーター(各島、特色あるものをアピールする)や定住者(住居等の整備)を増やす(県内外問わず)。ある意味で何もないけど、自然と共存共生できるところ。全てにおいて、島民のコンセンサス(ルールづくり等)が必要。インフラ整備と、島民の意識改革。島に人がいなくなる可能性。十島村役場の方々も定期的に各島に住んでみてはどうでしょう。役場の職員は鹿児島市内に住んでいるから現在の各島の状況がわからないのではないかとこの不満もあるようです。
	50歳代	男性	十島牛のブランド化。リュウキュウ竹の活用
			伝統文化の継承(PR)・特産品の開発および販売ルートの確立・観光メニューの開発(グリーンツーリズム、夏休み体験学校など)・魚の直販 新鮮さをアピール、輸送方法の確立、ホテル・レストラン等を対象にし(トカラ魚のブランド化)販売するのはどうか？
70歳以上	男性	一島一品の特産品の推挙。	
諏訪之瀬島	40歳代	男性	自分達の生活の維持と観光促進はかなりむずかしいと思われます。高齢化していく中で、どれだけのサービスが行えるのか？一つ言えるのは、近い現代的なサービスではなく、佐賀の武雄や大分の由布院など、田舎を売り物にする方法が考えられる。「昔ながらの日本」を体験できる所が十島村のよさではないだろうか？「消費生活とはなれて、人間らしい生き方をする」というパックがあっても面白いと思います。最近では、ネットかTVよりも口コミの方が宣伝効果があるようです。
	40歳代	女性	以前より、時間短縮、燃料節約等々、平島入港の見直しが出ているのですが、試験運航もされず、昔の航路が理由になっていますが、おかしいのではないですか？身近な出来る事から色々やった方が良いと思いますが…。本当の理由が解りません。
	50歳代	男性	十島と屋久島を結ぶ航路ができれば、観光客が十島に流れてくる。鹿児島、屋久島、十島、奄美と繋がれば、トカラの孤絶感も解消されると思う。
	60歳代	男性	日本で十島村でしか作っていない塩干(天日干し)トビ魚を十島のブランドで売り出してはどうでしょう？山形屋では今年実際そのようにして売っています。いろいろな食べ方があります。
フェリーとしまのレストランに発泡酒なども置いてほしい。			

居住地	年齢	性別	自由意見	
悪石島	20歳代	男性	大型連休には便数を増やし、村民が利用しやすいよう工夫してもらいたい。	
		女性	飛行機があれば、便利だなと思います。砂浜や泳げる所の海が綺麗だったら観光客が増えると思います。	
			ゴールデンウィーク、9月の連休の運航スケジュールを見直して下さい。今年に限っては、9月の連休時にフェリーとしまが三島に行くようですが、そのような事は連休外にしてほしいです。連休なので島民は島外へ移動するためフェリーが必要であるとお分かりかと思いますが、何故その時期にとしまを使われるのでしょうか。選挙の時やボゼツアー時などスケジュールの変更がありますので、連休のスケジュールも考え直して下さい。	
	30歳代	男性	現在の運航で十分である。 大型連休は便数を増やし、島民が利用しやすいようにしてほしい。 連休中に船便(運航スケジュール)が悪いことが多いので、そこが改善されるとよいと思う。	
		女性	連休などの時に、観光客が来やすいようなフェリーの運航にしてはどうでしょうか？島民も島外に出やすくなると思います。 観光などよりも深刻なのは、少子化。若い人が少ないので子供が少なく、島の学校の存続が危うい。もっと住みやすい(交通利便性の高い)場所にして、若い住民を増やす努力が必要。	
	50歳代	男性	悪石島の砂風呂をアピールして欲しいです。 フェリー入出港時間の見直し(鹿児島出港、名瀬出港時間他)	
		女性	島の人材を大切に、人事育成の活動を進めて、やりがいを持たせる。耳を傾けて聞いてあげる。そこから何かいいものがあれば生かしてあげる手助けが欲しいです。	
	小宝島	20歳代	女性	フェリーとしま・塩・海・環境・人のあたたかさ
		30歳代	女性	黒糖まんじゅう、ふくれ菓子など、おみやげ用のお菓子が各島か十島であるとよいと思う。TV、ネットなどで「おとりよせ」商品として特産品をアピールしてはどうか。十島の七つの島を題材(舞台)にした小説を募り、ドラマ化、映画化する。
				十島に生息する生き物(陸・海)の珍しさに驚かされることが多々あります。地元の人には当たり前かもしれないことを新鮮な目で紹介できていいのかなと思います。それには、十島のこの島ではどんなことができるのか、誰が対応してくれるのか、民宿とタイアップしていくことが大切な気がします。何かをいっしょに作るというのでもいいかもしれません。
40歳代		男性	観光ばかり言うな！もっと別の考えも必要。観光一本の村役場にはうんざりです。	
	名瀬に主治医がいるクリニックに通っていたが(月1程度)名瀬便が金曜日出しに変わったために通院できなくなった。(土曜日の診察時間には間に合わない)月曜日出しの船(名瀬行き)が増えれば助かるが…。名瀬から空港に行くバスが(最終便)うまく連結していないので、できれば改善していただけると交通費削減につながるのだが…。			
50歳代	女性	Q12に関しては、質問の意図も意味も分かりません。小宝島で民宿をやっていますが、日食特別期間中の客の受け入れを1企業に丸投げした村は思い違いをしているようにみえます。旅行代金を35万円払って、分校に張られたテントに1泊するだけの客が果たして観光客と言えますか？観光客は多ければ多いほど良いことですか？島民の暮らしを「観光客に金を落とさせる」方向に誘導するのが正しい行き方ですか？人が島に来てほしい、島のことを知ってほしいというのは島に暮らす者の切なる願いです。もう一度、この出発点に戻って考え直したいと考えます。		

居住地	年齢	性別	自由意見
宝島	20歳代	男性	上四島と下三島では前述したように医療面での不公平がある。地理的条件はしかたないが、船便によって改善してほしい。毎週名瀬便2便にするなんて無理なことを考えず、月1回名瀬便を増やすとか、月1で宝便と名瀬便を入れかえるとか。そうすれば、名瀬の病院に平日に行けるので、とりあえず文句はない。また、歯科だけでなく、他の科も土曜対応してくれるよう県に申し入れているのか？(下三島の要望としてではなく、村全体の要望として。)
		女性	三島村みたいに十島村のCMを流してみても？ 歯科診療について。こじか号が年2回診療に来ているが、1回では治療が終わらず、本土や奄美に通院が必要になる方も多と思う。フェリー代も負担になる。治療目的でフェリーを利用する人は割引するサービス(医師の診断書提出)など取り入れてみてはどうか。宝島は、平家の歴史などがある島である。十島に観光に来る方はつり目的の他に歴史に興味がある方も多と思う。島のパンフレットに歴史などものせてみてはどうか？
	30歳代	男性	名瀬～宝島間のアクセスを検討して下さい。 観光客を増やすということは外から見られる機会が増えることである。二輪や四輪を運転する際のルールについて(つまり道路交通法)の講習会を開くなどすべきでは？ごみは最終処分を利用しなくなったので良かったと思う。次は問題があってからでは遅いので、交通法規の確認を行う必要があるのではないだろうか？
			男性
	40歳代	女性	フェリーとしまは、十島村に住む住人の道路であることを、いつも考えて下さい。当たり前のことですが、船が無ければ生活はできません。「船を運営するのにお金がかかるので、住人に負担して下さい。」との考えが、強く感じられることがありますか？日本におけるトカラ列島を考えれば、この考えには行きつかないはずですが。もっと行政は国や県に働きかけて、トカラがどうあるべきか、どうしたら良いのかつきつめていけば、住人がより暮らしやすく、他の人も受け入れやすい環境が整うのではないのでしょうか。
			男性
	50歳代	女性	名瀬便を2便に増やしていただくと、もっと便利になるので助かります。 船の運航については、日2便でもよく、ただ「ななしま」を臨機応変に、そしてもっと安く使えないかと思えます。安全のためでしょうが、規制が厳しい。日食期間にお客様の持っていた島の案内地図は本当に不親切でした。役場には、これしかなかったのかとがっかりし、お客様に謝りました。観光資源は各島それぞれにポイントは沢山あると思います。島の人知らない物(事)それに島の人が普通だとおもっていること(物)でも、初めての人にはとても素晴らしいものだったりしています。
			男性
	60歳代	男性	

居住地	年齢	性別	自由意見
宝島	60歳代	男性	上記Q12の④でも設問されている通り、村の観光化推進の最重要課題は交通アクセスの利便性をいかにして創意工夫して構築していくかが最大のテーマとなる。関係の各行政機関はすぐに費用対効果はどうか？との議論へと展開する傾向にあるが、十島村の有人七島が点在する宿命と航路も国道県道であるとの観点から、定量化できない複雑な要素が混在しているのが実態である。航路の鹿児島・十島・名瀬の毎便双方運航は観光化推進など人命上や生活ライフラインの確立等々の面から早期に実現に至らしめなければならぬことである！
	70歳以上	男性	名瀬への交通の利便性を向上させることによって県内外から観光客も増えるし、医療の充実が望める。名瀬への交通はひとり宝島だけの問題ではないことを認識すべきである。
		女性	宝島に午前中に入港するような運航時間の設定。特産物(魚を使ったみやげ物)の開発。
	-	女性	わかりません

2. 十島航路利用者アンケート調査自由意見

(1) 十島航路全体について

性別	年齢	自由意見
男性	30歳代	不便なところも魅力のひとつなので、あまり便利になるとどうでしょう。最低週に3~4便くらいあったらうれしいです。それより、島間の移動がもっと楽だといいなと思います。
男性	30歳代	仕事で年に1~2回利用するが、島間の渡船がない為に不便。瀬渡し(チャーター)を頼むと5万円もとられるので、仕事の制約が出る。
男性	40歳代	名瀬港の乗船時間20:00~21:00は早すぎる。利用者(乗客)本位に考えるべき。船員本位は論外。21:00~23:00と、3:00~4:00がベターだと思う。
男性	40歳代	運航スケジュールの更新が遅い。※9月になっているのに、まだ10月がHPにアップしていない。
男性	30歳代	利用者の拡大は望めるので、せめて週3便全て奄美(名瀬)便を強く望みます。
男性	50歳代	見送りなどを考えると、出港時間はPM11:00が良いと思う。往復切符の割引も考えてほしい。生活物資の運賃等をもう少し安くしてほしい。
男性	60歳代	便数を増やして欲しい。

(2) 十島村の観光について

性別	年齢	自由意見
女性	20歳代	国の補助をたくさん受けられるようにするため、島内の観光充実化をする。皆既日食の勢いを止めないでほしい。
女性	30歳代	ポイント制(友好島民以外にも特典があれば良いと思う)
男性	30歳代	鹿児島にて十島村のPRと運賃収入増のために湾内納涼船の企画はどうか。(伊豆諸島方面の東海汽船を参考に)
女性	40歳代	各島ごとのプリントは設置されていたが、もっと詳しい観光スポットの説明書きや島の人口、島の大きさ等もっと島のことを知る資料がほしかった。船内限定の土産品をもっと充実させ、陳列を工夫し、販売をアピールしたら良いのでは?
-	50歳代	各島とフェリーを利用したイベントの開発。利用したことはないが、十島のマラソンはよい企画では?
男性	60歳代	中川運輸さんからよく中之島のパンフをもらうが、全ての島に行きたい。全ての島のパンフ(港の待合室に貼ってあるお知らせの写真)がほしい。頻繁にいろんな島のツアーを設けてください。

(3) フェリーとしま船内設備について

性別	年齢	自由意見
女性	30歳代	エアコンがちょっと寒かったです。
男性	30歳代	8年振りに利用しました。エレベーターが設置されたのは高齢者にとってよいことですが、分煙がされていないのが残念です。公共のフェリーですからロビーでなく喫煙室を設けるか、屋外(デッキ)に設置することを検討願います。
男性	50歳代	船内レストランの利用時間をもう少し長くしてほしい。(上り便も)

(4) その他について

性別	年齢	自由意見
女性	40歳代	各島ごとに下船出来ないの、せめて記念写真だけでもと思い、岸壁のWELCOMEを撮影したが、その前に駐車しているところが数ヶ所あり、せっかくのペイントが見えなく残念だった。せっかく描いたのだからWELCOMEの前くらい駐禁にしたらどうか? 日帰りか、一泊で遊びに来れるならカラ列島をもっと身近に感じられる。いつかそういう船が就航したらいい。
男性	60歳代	駐車場料金が高すぎる。
男性	70歳以上	以前から訪ねてみたかったので今回のツアー(9/3~9/5)は丁度よかった。

3. 皆既日食観測ツアー客アンケート調査自由意見

皆既日食観測ツアー客の自由意見について、滞在した島ごとに整理を行った。
以下、その詳細となっている。

(1) 口之島

年齢	性別	自由意見
20歳未満	男性	日食は見られず残念だったが、島はとても美しく、再び訪れたいと思う。
30歳代	女性	日食は見られなくて残念でしたが、口之島での滞在はとても楽しかったです。
30歳代	女性	コミュニティーセンターの前のコウ(湧水)がすごく良いです。コミュニティーセンターの中のお風呂がもう少し設備が整っていたらと思います。
50歳代	女性	近畿日本ツーリストの対応がいまひとつ悪かったのが残念です。
50歳代	女性	小中学校で行われた交流会は皆さんとお話し、踊りを踊り、生徒の皆さんの発表を聞き、とても楽しかった。コロナは見られませんでした。島の皆さんの優しさに心温まる思いを持ちました。
50歳代	女性	3年ほど前十島村のHPで日食のことを知りました。村の現状を伝える文章はとてもわかりやすく、また日食観測の人々をどう受け入れれば良いのか困り果てている様子が目に見えるようでした。日食当日までのたくさんの人の協力や苦労にとっても感謝しています。良い旅でした。
50歳代	女性	次回はもう少し涼しい時期に訪れたいと思います。
50歳代	女性	特別な観光などなくても十島村は素晴らしい所です。基幹産業の充実を願っています。

(2) 中之島

年齢	性別	自由意見
20歳未満	男性	私は中学生で一般の大人の方に囲まれてツアーに参加したが楽しめた。飛行機に乗ること、船に乗ること、一人旅をすること全てが初めての体験だった。多分、今後の人生に大きく関わる体験をさせてもらって本当によかった。
30歳代	女性	残念ながら日食は見れませんでした。島での生活は大変楽しく充実したものでした。満天の星空は忘れません。
		お天気を除けば満足の出来るツアーでした。時間を忘れてあっという間に滞在時間が終わってしまい、まだまだやりたいこと、行きたい所がありました。
		自転車があると非常にうれしい。 今度はぜひ天候の安定している時期に訪れたいと思います。
40歳代	男性	皆既の太陽が見れなかったのは大変残念です。しかし、島民の皆様や旅行社の方々、ツアーの仲間には大変恵まれたと思っています。日食当日以外は島内を歩かせてもらいました。道中誰にも会わず半日過ごせるというのも贅沢なことだと思います。
		中之島観光ツアーとしては、良かったと思う
		今回は天候に恵まれず日食そのものを見られなかったのが残念でありませんが、それ以外の旅行全般に関してはとても楽しく良かったです。
		まずはどこかで皆既日食を見て、それから島を再訪したいです。(晴天が続く時期はいつでしょうか)
	島民のみなさんに皆既の太陽を見ていただけなかったのが残念でした。	
40歳代	女性	地元の皆様のためには地域活性化、航路活性化すべきだと思いますが、個人的な意見としては今のまを維持してもらえたら嬉しいと思います。あまり多くの観光客に荒らされないで欲しいです。でも航路廃止とかは困りますが。
	女性	遠いのでこういう機会でもないと行かないと思いますが、いい所ですので、もっと宣伝して知名度を上げれば良いと思います。
50歳代	男性	今回の日食は残念でしたが、近いうちに天体観望とダイビングに行きます。夜空と海の中は他の離島(トカラ以外)とは別格でした。
		皆既日食が見られなかったのは残念でしたが、エルニーニョという地球規模の異常気象により、梅雨前線南下ということもあり仕方ありませんでした。中之島の天文台の台長さんから十島の星空の素晴らしさをたっぷり聞かされ、ぜひ素晴らしい星空を見たいと思います。もう一度十島に行きたいと思いますので、そのときはよろしくお願いします。
	女性	島の方は皆さんとても親切で温かく、交流会は楽しかったです。
		日食のコロナやダイヤモンドリングは見られませんでした。皆既の時の暗闇、月の影が西からやってくるのが見えたり、皆既後小鳥が鳴いたりして、皆既を感じる事ができました。
		夜にはキイロスジボタルをたくさん見ましたし、朝夕には小鳥たちの声が聞こえ、美しい海原が見え、草原にはトカラ馬が歩き・・・書きたいことは尽きません。日本最後の秘境と呼ぶにふさわしい素晴らしい自然とやさしく温かい島の皆さんとの時間は他に替えがたいものだったと思います。
夜、鹿児島島に入港するので一泊しないと飛行機に乗れないので、飛行機と他の交通機関とのパックがあると良いのですが。駅または市内からシャトル便のようなものがあると便利だと思います。		
60歳代	女性	島での楽しい思い出がたくさん出来ました。

(3) 平島

年齢	性別	自由意見
40歳代	男性	日食を見られなかったのは残念でしたが、今回のツアーで平島を訪れることが出来てよかったです。島の人たち、子供たちからたくさんの感動をいただきました。島を離れるときわずか72時間ほどの滞在なのに、島に帰りたい気持ちになりました。
		日食については当日天候に恵まれず、残念な結果となりましたが、今回十島村の人々と触れ合うことができたのは自分にとって、非常に良い経験となりました。またいつの日か十島村を訪れることができれば良いなと思っています。
		天候が悪かったことが残念。夜だけでももう少し晴れて星空が見られていたら、かなり良いイメージをもてたと思います。
		平島の稲作農家も二軒に減り、今年で一軒がやめて来年からはただ一軒のみになると聞き残念に思います。もっと沢山の棚田が見られると期待していました。何とか復活させる方法はないのでしょうか。黒潮がトカラ列島を西から東に横切って流れているそうですが、この事は村のアピールポイントの一つとしてもっと宣伝してもいいのではないのでしょうか。
		子供がもう少し大きくなったら、今度は家族で訪問したいです。
40歳代	女性	日食ツアーのおかげで、絶海の孤島へ行くことができてよかった
		日食は観測できず残念でしたが、島の方々の心遣いやもてなしには大変満足しました。交流会では沢山のごちそうを用意していただいたのに、夕食の後でお腹がいっぱいで食べられなくて、すごく申し訳なかったです。皆でこれが夕食で良かったねと話していました。船で島を出る時には、子供たちの太鼓と踊り、棧橋まで走ってきて見送っていただいて感動しました。
		東北地方からはかなり遠くツアー代金が高かったですが、十島村に思い切って来て良かったです。いつかまた行きたいです。
50歳代	男性	名前も知らなかった島へ行く事が出来てよかった。
		日食は大変残念でしたが、トカラ列島を訪れることが出来た事は大変よかったと思っています。
		特別に観光施設のようなものがないところが素晴らしいです。海と島と島の方々の生活それがすべてです。すごく難しいことなんだと思いますが、活性化ということで他の多くの観光地と同じになってしまわないようにしてほしいです。雨降りの西の空に立ち上がった月の影、というより闇ですね、あれはすごかったです。コロナやプロミネンスも見かけたのですが、それは今後に残しておきます。
		以前写真で見た以上にきれいなところやそうでないところがあった。特に海水浴場はゴミが多かったし、浜が思いのほか狭かった。食堂や喫茶店が無かったので、気軽に一杯(コーヒー・ビール等)飲むことができなかったのは残念だった。日食ツアーに関しては、体育館は基本的に飲食禁止ではあるが、冷蔵庫があると助かったのでは。
60歳代	男性	島民の方々が一丸となってイベントを実施してくれたので、楽しい一時を過ごせました。まさに「刻を忘れさせる島」を実感させて頂き大満足です。
		機会があればまた行きたい場所No.1です。

(4) 諏訪之瀬島

年齢	性別	自由意見
20歳代	男性	島での滞在は素直に楽しめました。たまに行くにはとても良い場所だと思うが遠い。片道丸2日かかるのは会社員には厳しい。
		初めて行ったが、いいところだった。日食が天気のせいで見られなかったのは残念だった。昼間は時間がかかりあったので、もっとイベントがあってもいいのではと感じました。
		所要時間や交通費を考えるともう一度行きたいとは思えなくなります。
	女性	皆既日食は見られなかったが、島の人々の温かさや自然にふれ、充実した旅になりました。全体的に満足です。フェリー「なみのうえ」はスペースが狭く、窮屈で気分が悪くなりました。
		島の道はアップダウンが多かったので、観光用にシャトルバスなど使えるようにしてもらえるとよかった。海水を利用したシャワーだったので髪もバサバサになり気持ち悪かった。
30歳代	男性	十島村は私がもっとも好きな場所の一つであったので、皆既日食は正直天災としか思っていないです。村の人々がこの事を正面からうけとめ、取り組んでいる姿を見て、予算をかえりみず申込みさせて頂きました。結果として、日食は見られなかったですが、参加者の人はそれ以上の思い出を持って帰られたと確信しています。それは村の人たちの心が皆に伝わり、帰る時誰もが船から島に向かっていつまでも手を振っていたのを見て、心からそう思いました。2012年の金環、そして列島マラソン、ずっとずっと参加させていただきます。
		ツアー中天候が悪くて、島の良さを満喫できなかったのが残念です。
		残念ながら日食時の太陽は見られませんでした。上陸日の深夜の星空はとてつもなく綺麗で、あんなにたくさん星や天の川がはっきり見えたのも初めてだったので、非常に印象に残っています。
		日食は見る事が出来なかったが、楽しいツアーでした。
		できれば他の島も訪れてみたいと思う。
		今度は満天の星空を見に行ってみたいです。
	女性	十島村の島々は、今回の日食ツアー参加に至るまでの情報収集で非常に魅力的であることを知りました。今回、上陸した島以外にも、機会がありましたら、ぜひ訪れてみたいと考えています。くれぐれもこの貴重な自然・魅力を失わないように配慮しながら、島民の皆様が繁栄されることを願います。
		島の住民が楽しむことが大切。今後も十島は十島のやり方を追求してほしい。
		帰りのにつぼん丸でのイルカの群れは印象的でした。海洋レジャーや流星観測などの天文イベントを期待します。
		鹿児島ー那覇が無駄。奄美での途中参加、離脱の可否についての説明が事前にほしかった。
		今回初めて皆既日食ツアーに参加しました。十島村へ行くのも初めてで、期待と不安でいっぱいでしたが、島の方々やスタッフの方々他多くの方々に支えられ、楽しいツアーとなり感謝しています。フェリーも長時間初めて乗り、こんなに楽しめるものだとは思いませんでした。友達にも出会え、大変良かったです。
		日食が見られなかった事は残念ですが、予想に反するおいしい食事と快適なテント生活がおくれました。島民の皆さんの温かいおもてなしのお気持ちがとても嬉しく、素敵な景色とともに心に残っています。今回の日食がなければおそらく十島村もトカラ列島も知る事なかったであろう地名であり、訪れる事さえなかった場所ですが、不思議で素敵なお縁を嬉しく思っています。
		島の方々と踊れたのも良かったです。トレッキングも楽しかったです。TV「テレメンタリー」で島の方々の気持ちがよくわかりました。
島の方々がサプライズで企画してくださった「八月踊り」がとても印象的で楽しかったです。子供たちの学習の発表が掲示してあり、勉強になった(島の歴史や日食についてなど)。歌を歌ってくれたのも感激でした。船を降りたときの出迎えや、帰りの見送りに島の方々の温かさを感じ、帰りは泣きそうになりました。石切港のトカラヤギの絵がすごくかわいくて、山や花やトビウオなど諏訪之瀬島の明るい雰囲気が伝わってきました。		

年齢	性別	自由意見
30歳代	女性	トカラ列島は遠いのでなかなか足を踏み入れるチャンスはないと思っていたのですが、日食をきっかけに思い切って行って本当に良かったです。またぜひ遊びに行きたいです。
40歳代	男性	ツアーに関して、かなり入念に準備されていたのがよく分かりました。それだけに天候が悪かったのが本当に残念でした。沖縄出発で船に丸4日、沖縄まで丸2日、というのが疲れました(ひたすら耐えて待つという感じなので)。荷物の宅配サービス、個数制限についての案内が(内容が変わったり)分かりにくかったです。
		受け入れのための準備が大変だったと思います。日食が見れなかったのは残念ですが、一生の思い出となりました。
	ダイビングが出来れば最高のポイントがいっぱいあるような気がする。	
	失礼ながら、何も無い環境でゆったりできたことがとても贅沢な過ごし方で最高でした。仕事を忘れることができました。	
女性	世間ではいろいろ言われていますが、ものすごく頑張ってもらえたことがうれしいです。	
	島の醍醐味のひとつに温泉があるので、集落あたりにひとつでもあるとよりよいと思います。せっかく大量の大名竹があるので、竹細工の工芸品とかあると土産になるのでは。中之島みたいに夜空観測も売りにしては(だれか天文に詳しい島民がほしいですね)。あともっと人との交流がやはり必要かと思います。旅行記を公開しています⇒ http://piazza.rakuten.co.jp/lynxbaum/diary/200907200000	
50歳代	男性	今回のツアーに関しては、島までの所要時間がかかり過ぎたので、他に方法は無かったのかという思いがある。ただ全体としては、とても楽しい旅行だった。天候のことはどうしようもない。
		近畿日本ツーリストと島の方々の協力により、とても気持ちよくすごせました。
		にっぽん丸は良かった。
		受け入れ態勢など大変だったと思いますが、お蔭様でとても貴重な体験をさせて頂きました。今回の日食に集まった一人ひとりにはそれぞれの思いがあったと思います。正直言って、相当高額ツアーなので、生半可な思いでは参加できません。私たちがおじゃました事が、少しでも島の為になってくれればうれしく思います。
		島の自然も聞いたことのないセミの鳴き声、雄大な山・海、その中に寄り添うように生きている人々。癒される島でした。
		日食が見られず残念だった。
	島に何か大きな観光資源があればと思いましたが、変に開発してホテルが林立してしまっても、それでは産業としての島の資源にはなりませんよね。長く続けられる資源を大切にされることを私は願っています。	
手つかずの自然が多く残されており、素朴な人間社会と共に心のリフレッシュに適地。島ならではの食事があればと思う。		
女性	日食は見られませんでした。忘れられない素晴らしい旅になりました。諏訪之瀬島で頂いた食事は印象深いです。にっぽん丸にイルカの大群が現れて、長時間帆走してくれたことも素晴らしかったです。今まで名前さえも知らなかった諏訪之瀬島という所を知ることができて、そこに暮らす人々や大自然にめぐりあえた事、そこに行くまで長時間フェリーに乗ったことなど良い体験をさせて頂きました。	
60歳代	男性	現地スタッフは親切で献身的だった。事前の案内がなく、戸惑ったことが何度もある。往路の奄美大島着後、長い距離を歩いたこと、翌日の集合場所と時間がホテルに着くまでわからなかったことなど。
		日頃味わえない体験ができてよかった。
		今回の日食観測ツアーに参加し、3日間島に滞在。宿营地、食事の準備、後片付け等大変御苦労を頂きましたこと、感謝いたしております。食事は大変美味しくいただきました。
		欲をいえば、テントサイトがもう少し平であつたらと思います。
		残念ながら天候には恵まれず、日食そのものは見られませんでした。皆既の瞬間は感動いたしました。又、機会があれば見に行きたいと思っております。

年齢	性別	自由意見
60歳代	男性	皆既日食が観測できなかったのは、運がなかったのではやむをえない。離島の暮らしは我々都会人(静岡県三島市在住)には長時間の滞在は無理だが、日常生活のインフラが整備されればもっと暮らし易くなると思うので、行政のかじ取りが重要だと思った。
	女性	サービスが良かったです。
70歳以上	男性	にっぽん丸で諏訪之瀬島に行きましたが、悪天で上陸できず残念でした。
-	男性	これは近畿日本ツーリストの問題だが、にっぽん丸で結構良い船旅ができることや、島での食事について情報が無かったので、「大変ひどい生活になるが、日食はぜひここで見なければ」という思いで来たので、案外良い旅だった。お茶や酒等いっぱい詰め込んだり、送ったりしたが、その必要はなかったように思う。

(5) 悪石島

年齢	性別	自由意見
20歳未満	男性	今後このようなツアーをいろいろと実施してください。
20歳代	女性	近畿日本ツーリストは手落ちが多かった。発売が予告より大幅に遅れたところから始まり、事前説明会の案内は出発直前で、メールの題名は文字化け、事前説明や葉の内容と実際の食い違い、トイレの管理の不手際等。
		村の人たちの対応は良かった。村の一大イベントに子供たちまで一丸となって頑張っている様子を見ているだけで気持ち良かった。
30歳代	男性	皆既日食が雨で見られなかったのは残念です。しかし、皆既中は、真っ暗になり気温も下がったことを体感できたので、貴重な体験をさせていただきました。
		日食ツアーなのにテントの配置に方位や風向きに対する配慮が欠けていたのは非常に残念です。日除けと雨天時兼用のタープがほしかった。中継や天気予報の確認用に大型のテレビモニターがあっても良かった。携帯電話会社はドコモだけではないので、携帯電話のレンタルよりも仮設公衆電話や有線LAN、それから原付やパワーアシスト自転車のレンタルがあっても良かったと思う。入浴時間が短く回数が少なかった。水の出しっぱなし対策としては蛇口を交換しておくべきと思う。トイレの数が少ない。体育館下の男子便所は小便専用にするべきと思いました。島民と参加者同士の交流について具体的な仕掛けがあると良かった。単にドームテントといすを置いただけでは安直すぎる。一部メディアの人たちが深夜遅くまで騒いでいたのは非常に迷惑。特にテレビの取材は誘導尋問のようなセンスのない愚問ばかりで辟易した。むしろ、有料で専属カメラマンを同行させ、旅の思い出作りに貢献すべきでしょう。主催者一任は結構だが、仕事が機械的に酔い対策も酔い止めだけではあまりにお粗末。心理面の配慮が希薄。
		ツアーに関係なく5年前からトカラでの日食のことを知っており、今回の往訪を待ち望んでおりました。本当はにつぼん丸でなく「としま」での訪問をと思っておりましたが、島に長くいたかったので、沖縄往復となりました。日食もちろんですが、名前からして長年気になる存在であった悪石島地を踏めたこと自体にまず満足しております。また、一回り以上年を重ねてから訪れてみたい、そんな思いにさせてくれる島でした。
		島の人達がとても温かくもてなしてくれ、素晴らしい5日間となりました。別れの朝はとても辛く少し涙が出てきてしまいました。また悪石島を訪れ、ボゼに会いたいと願っております。
		もう少し現地の食事も経験したかった。日食が見られなかったのは残念だが、これは仕方がない。
		露天の温泉に入ったのですが、気持ち良かったです。
		につぼん丸は短時間で残念でしたが、非常に快適だったのでまた乗ってみたい。
		近畿日本ツーリストさんからもアンケートがあってもよさそうなものですが。
		今回初めての皆既日食で、またその他にも初めてのことやものが多い旅でした。「悪石島」の名前を見つけた時は強い関心を抱き、日食で行けなくても一度は行ってみたいと思っていました。今回一泊という短時間のため島を楽しむ事ができなかったのも、またいつか訪れたいと考えています。* 来年1月15日金環日食に伴う部分日食欠けながら沈む太陽がトカラでも見られますね。
		皆既日食は悪天候で残念な気持ちでしたが、旅行会社スタッフや島内の皆様のおかげで思い出に残る旅ができました。
女性	これから何度でも訪れたいと思います。まずはトカラマラソンに参加してみたいです。	
	受け入れ可能なぎりぎりの最大人数を受け入れてくださったのかなと思いました。この状態で、かつ当日の悪天候では「島を見る、島民とふれあう」ことは難しかったと思います。のんびり滞在したいと思いました。	
40歳代	男性	日食が見られなかったのは残念でしたが、ツアーとしては完璧でした。につぼん丸での旅、そして海上で乗り換えての悪石島への工程、海上保安庁の護衛付きで、なかなかお金を出してもできない経験ばかりでした。食事もたくさんメニューでおいしくいただけましたし、よかったです。

年齢	性別	自由意見
40歳代	男性	水不足は大変深刻でした。昼シャワーでは汗を流しても、すぐまた出てくるし、洗濯禁止はいたかったです。(こっそりバケツでやりましたが)長期滞在者には物干しスペースの充実も必要と思いました。
		我々は全行程無事に安全に過ごすことができ、村民の方の厚いおもてなしを受けた感があり、(日食が観測できませんでしたが)旅行には満足しています。
		島民の皆さんの温かさは予想以上のものがありました。私たちが忘れていたものを再発見したと思います。おかげさまでツアー客同士も仲良くなり、今はメールを取り交わしています。
		トカラ列島は「豊かな自然を心の拠り所にする」「自給自足を通じた人的交流」をキーワードに大量消費、効率主義に疲れている本土の人間の受け入れを進める企画などいかがでしょうか。
		日食観測につきましては観測出来なくて残念ではありましたが、漆黒の間を体験できたのは良かった。タレントの彦麻呂さんではないけれど、「あの漆黒の暗って天体現象と気象現象のコラボレーションや」です。また元小泉総理大臣が発した「感動した」は、私的に言えば「あの漆黒の暗には感動した」です。
		近いうちに必ず再訪したいと思います。
		天気は残念でしたが楽しい時間を過ごさせていただきました。夜、一瞬の晴れ間から見た満天の星空が忘れられません。周囲に全く明かりのない島は天文ファンにとって魅力的です。交通手段が整い、手軽に行けるようになれば、また行きたいです。あの星空は日本でも最高です。
		いつか、トカラの島巡りをしてみたいと思いました。
	あいにくの雨で日食は見られませんでした。島民の方々、ツアー会社の方そして”官”までまきこんで大成功のツアーだったと思います。ゼロからここまでツアーを作り上げた方々に感謝します。近そうで遠い島々でしたが身近なものとなりました。今後もおもしろいイベントを考えていただいて、リピーターが生まれる島になればいいと思います。	
	女性	今回日食自体は悪天候の為、見ることは叶いませんでした。しかし、島民の皆様の温かい歓迎とボゼ祭り、他のおもてなしに大変感動し、このツアーに参加して本当に良かったと思います。
今回の皆既日食で初めて十島村を認識しましたが、滅多に訪れる機会のない島にお邪魔させていただき、とても貴重な体験をさせていただきました。何年も前から準備していただき、生活に支障をきたすにもかかわらず、温かいおもてなしをしてくださったことを心より感謝いたします。		
今度は、ぜひ本物のボゼ祭りを見に悪石島を訪問したいです。		
日食が見られず残念でしたが、ぜひまた遊びに行きたいです。		
50歳代	男性	日食だけではなく、自分の足で島を歩いてみたかったが、ツアー参加者は立入禁止と学校の教頭に言われた。これでは観光が思うようにできない。不愉快だった。近畿日本ツーリストの添乗員も「対馬丸」の遭難のことは良く知らないようで、説明がほとんどなく、島内ツアー(バス)の時も、慰霊碑に参拝させてほしいと頼んだが、それも理解されず、非常に不満が残った。
		懇親会でのボゼの出現や中学生のみなさんの手作りパンフレットなど、心のこもった歓迎をしていただき、感謝しております。
		悪石島には1泊しかしていないので、ゆっくりとした流れを実感することが出来ませんでした。いずれ、トカラ列島の本当のよさを体感するために、折を見て再訪したいと思います。
	ツアー代金の34万円はどこに使われたのは知りたいですね。フェリーの乗船費もそんなに必要ないし、テント代も食費の材料費もたいしてかかっているとは思えない。十島村の財政に回ったのだろうかとかと勘ぐりたくなります。今回のイベントで、島民がどの程度潤ったのだろうか。光ケーブルは個人の家まで配線されていないと聞きます。離島への旅は不便な程旅人にはいいのかもしれませんがボゼのTシャツは気に入りましたがサイズ欠品があったので残念でした。	
女性	にっぽん丸から悪石島への舟がひどかった。まるで奴隷船だった。	

年齢	性別	自由意見
50歳代	女性	沢山の人々がおしかけ、十島村の方々にご迷惑をお掛けしました。自分達の趣味の為にあそこまでして頂いて良かったのでしょうか。今反省している所です。でも、26年後生きていたらまた見に出かけそうです。
60歳代	男性	皆既日食をこの目で見られなかったのは残念でしたが、あの暗くなっていく瞬間は不思議でしたし、悪石島での歓迎会・島巡りも大変楽しかった。また船旅は時間がたつぷりで読書も充分できたので、かなり満足しています。
	女性	皆様の大変な受け入れのための作業を思い、ありがたいと思いました。 今回はお天気が悪く残念でしたが、そちらに行けたことは大変良かったと思います。もっと宣伝活動をして、旅行客が多くなる様に願っております。
70歳以上	男性	雨の中の日食、またとない経験でした。
		日本にもまだまだ知らない場所があり、いい所だなとつくづく感じました。遠いですが、機会があったら訪れたいと思います。

(6) 小宝島

年齢	性別	自由意見
20歳未満	女性	とても楽しかったです。また絶対に行きたいと思います。(日食も十島村も)
20歳代	男性	皆既日食を見る目標は達成できなかったが、南の島では有意義な時間を過ごすことができ、本当に良かった。ただ、ツアーの料金については不満が残り、もっと安くできなかったのかと思います。
		日食ツアー期間中に、ツアー以外の観光客を十島村外に追い出したという話を何件か聞いた。この点は非常に不満だが、ツアー自体やフェリー「としま」や小宝島にはどれも好印象を持った。近いうちにまた小宝島を訪れたい。
		フェリー「としま」のカウンターに小宝島の子供が作った「ガイド」が置いてあり、それがとてもよかった。その他の島についても知りたいので、同じようなガイドを増やしてもらえると大変うれしい。
40歳代	男性	日食を見られなかったのは残念でしたが、小宝島を堪能することが出来ました。シュノーケリングで見たきれいな魚、満天の星・天の川を温泉から見る贅沢。様々な蝶。なかなか簡単ではありませんが、また行きたくなる島でした。
		今回の日食ツアーで小宝島内のビデオ撮影を十島村でされていたと聞きました。コピーや販売等はされないのでしょうか？
	女性	近畿日本ツーリストのデスクの方や村の方々に臨機応変に対応して頂き有難かったです。ツアーの参加者も小人数で和やかで、嬉しく思いました。(私はたくさん人があるのは苦手なので)皆既日食が晴天だったら100点のツアーでした。
		とてもものんびり旅ができました。ツアー旅行は初めてでしたが、それなりに楽しかったです。
		船旅とテント生活が不安でしたが、普段経験できない事が良くも悪くもできてよかったです。日食は見れませんでした。他のツアー参加者や、スタッフ、島民の方々と交流は良い思い出の1つとして私の中に残ると思います。
		小宝島のみなさんがとてもあたたかく、すばらしい一週間でした。ぜひ再訪したいです。
		小宝島の方々にも温かく接していただきました。天気が悪く、日食は見られませんでした。前夜、星の観測会を開いていただき、たくさん星の話をお聞かせいただきました。
		レンタルシュノーケリングセットなどがあればよい。
		島民の方々にご迷惑にならないようにという条件の下でのツアーであった為、不便なことは覚悟していた。今後、観光客に来てもらいたいのであれば、豪華でなくても清潔な宿泊施設があって、ネットで情報が得られるようになることが最低限の必要条件だと思う。
		温泉は真っ暗なので懐中電燈をたよりにして怖かったけど、星が見えた時はホッと、ヤドカリさんがあちらこちらで歩いていたのには笑ってしまいました。船が離岸するときずっと手を振ってくださったスタッフや島民の方々の姿も忘れる事ができません。涙がホロリと出てしまいました。あんな経験はなかなかできないと思います。
50歳代	男性	日食がなかったならば一生訪れることはなかったと思います。このようなすばらしいところがあることを知り、大変良い経験が出来ました。ツアー料金は法外な値段と言えなくもありませんが、ちゃんと十島村に還元されるのであればかまいません。
		それを考えるとツアー参加者は1年間無料で友好島民の会会員にしてもよいのでは。

(7) 宝島

年齢	性別	自由意見	
20歳未満	男性	子供(7歳)は島での事がとても楽しかった様でまた行きたいとときりに言っています。	
20歳代	男性	日食ツアーで体験したあらゆることを今でも頻繁に思い出します。村を活性化させることは大事ですが、下手に観光地化させてトカの良さが失われないよう願います。夜、とてもきれいな星空を眺めることができました。日食ツアーは昼間活動するものなのかもしれませんが、夜の自由時間をもう少し長く確保して天体観察ができると良かった。	
	女性	日食は残念だったけど、みな仲間という感じが生まれて楽しかった。想像していたより近くてよかった。島民・ツアー関係者の努力の賜物だと思う。	
		悪天候で日食が見られなかったのは残念だったが、ゆっくりした時間を過ごすことができた。親子なのに奄美で違うホテルになってる等ツアーの不備もあったが、スタッフの人がよくしてくれたので良かったと思う。	
		島の住民の方々には大勢で押しかけたのに、親切にさせていただいて大変うれしかったです。交通の便が良ければより良いと思いました。(島に行くのに3日位かかっているの)	
		距離では沖縄より近いがやっぱり遠いイメージがぬぐえない。その問題が少しでも改善しないと活性化は難しいと思う。のんびりしたい人には良いところだと思う。想像していたより近くてよかった。	
30歳代	男性	日食が見られなかったのは残念でしたが、食事は大変おいしくよい思い出となりました。	
		多くの自然が残り、島の人々も温かく、ゆっくりとした時間の流れの中で、毎日バタバタと働くことを忘れ心が休みました。とにかく「島時間」と言うのでしょうか？一番感じました。	
		宝島を訪れてとても良かったです。島の人達のおかげで快適に過ごせました。	
		今度は島の食べ物を食べに行きたいです。	
			ツアーは当日日食を見られなかった事は残念でしたが、暗くなる状態を十分に体験できてよかったです。天気ばかりはどうにもなりません、次回は晴天率の高いところで見たいです。トカラにはチャンスがあればまた行ってみたいです。
	女性	近畿日本ツーリストのスタッフへの不満ですが、帰りの船は宝島→名瀬→鹿児島だったので、船に荷物を預ける場合、名瀬までではなく、鹿児島までの料金だと聞いて、何回も間違いはないか確認して頼んだのに、名瀬で別にお金がかかると言われました。それだったら3時間だけなので預けなかったのに、騙されたみたいで、がっかりでした。間違いのないよう気をつけてほしいです。	
		トカラ列島へはいつか行ってみたいと思っていたので、今回のツアーはいい機会でした。奄美大島へも行ってみたいと思っていたので、立寄ることができてよかったです。帰りの船(クイーンコーラル)も良かったです。日食は見られませんが、楽しい旅行ができました。とてもいい思い出が作れてよかったです。	
		水の使用制限や観光ポイント周辺の草刈など、色々大変だったそうですが、おかげ様で思い出に残る旅行になりました。次はのんびりと滞在してみたいと思います。	
		島の皆さんの歓待に悪い印象を抱いた人はいないはずですが、特に島を離れる時に島の有志の方、数十人がメッセージカードを1人1人に渡してお見送りしてもらい、来て良かったと皆が口々に言っていた。	
		私は日食が好きで、今回11回目でした。島のみなさんにも晴れた日食を楽しんで欲しかったです。	
次はのんびりと滞在してみたいと思います。			
		もう一度訪れてみたいが、やはり交通の便に難がある。島の雰囲気はとてもよかったです。	
		島の人々の表情が良かった。野生のまま残存する自然も素晴らしかった。次回来訪するときには星空観測をしたり、鍾乳洞も探検したい。日食は見られなかったが、あの暗闇の6分はすごい体験だった。トカラだからこそ体験できたと思う。	

年齢	性別	自由意見
30歳代	女性	島について今回のようなツアーではその良さを満喫するのは難しいです。このような島へ旅行する目的は「癒し」。交通手段を増やして目的外のストレスを減らし、自然を楽しませる過程には多少の不自由というストレスを入れて、満足感を高めるという工夫が必要。あと初心者でもダイビングなどできるように教えてくれる人や設備を宣伝しないと遠い島は行きにくいと思います。
30歳代	女性	旅の気持ちが盛り上がっているタイミングで友好島民募集のパンフを配ることをお勧めしたい。私はたまたまフェリーにあった情報誌をいただいて、友好島民のことを知りました。A会員なら敷居が低いので、旅直後なら申し込む人が多いはず。タイミングを逃したのが残念です。
40歳代	男性	ツアー自体は、やはり晴れて日食が見えないと満足できないなと思います。十島村については、日食がなかったら一生行くことがなかったと思いますので、このような機会に行くことが出来てよかったです。
		このような特殊な事情のため、軍のキャンプのようになってしまった感は否定できません。
		旅行者完全負担という面では仕方なかったのかもしれないですが、やはり沖縄や鹿児島までの旅費も含まれずに34万という額は高かったです。結果的に安い中国ツアーの影響もあってキャンセルが続出したことを考えると、もう少し観光振興で行政の支援があって費用を抑えるべきだったかと思います。ツアー自体は島民の歓迎の真心、本気度が伝わり満足感は得られました。なかなか他では味わえないツアーでした。
		4回目のトカラになりましたが、来訪者がけた違いに多くご苦労が多かったように推察します。今回来た人々の何%でも改めて訪れてもらえるようになれば島の発展にもつながると思いました。数年前に比べて発信能力はアップしていると思いますので、着実に伸ばされることを期待します。
		ツアーを近畿日本ツーリストに任せたことが不満。日本の大手の近ツリ・JTB等で実行委員会形式でツアー案を考えればもっといいものになったと思うし、金額も低く設定できたと思う。今回のツアーは競争の原理が働いていないので、近畿日本ツーリストの独断で内容が進められ、それを客観的に評価できる立場の者がいなかったのではないかとと思われる。
		今回は、食事や入浴の時間が決まっていたため、島内を観光する時間がほとんど無かったのが残念でした。せっかくの機会でしたので、島の自然や風景を楽しむゆとりがあればよかったです。
		こんなことでもなかったら一生行けないだろうトカラに行けたこと自体が私の一番の満足です。
		島の皆様に温かく迎えていただき、楽しい旅でした。短期間に人口の数倍という大人数で押しかけ、戸惑われたことと思います。
		限られた期間、限られた設備の中での準備・受け入れ・片付け大変だったと思います。
		今度のはのんびりと行ってみたい
		また行く機会に恵まれたなら、食事や景観など十島村のよさを存分に味わいたいと思います。
		今後、普段の十島村で刻を忘れる旅をしたいと思います。
		十島村のいいところは、海がきれいなところで、海遊びを期待していたが、ごみが多くて残念だった。
		次に行く機会があったら、食事や景観など十島村のよさを存分に味わいたいと思います。
		秘境と呼ばれるわりに、行きやすい印象があるものの、これといった観光資源が思い浮かばない場所だと感じました。そんな中、天体観望にふさわしい空の暗さと、GTが狙える海は魅力的でした。今回港で釣りをする予定で事前にネット上で調べたものの、「大物釣り」以外の情報が得られなかったのが残念です。
女性	日食は天候が悪かった為残念でした。	
	日食は見られませんでした。宝島に行くことができて本当に良かったです。	
	海の物がおしかったです。天の川があそこまで見ることができるとは思っていませんでした。また、どこかの島に行きたいです。	
	今回のようなある意味“非常事態”に対し、村として上手に事前準備をされ、静かに温かく受け入れて下さったことを感謝したいです。	

年齢	性別	自由意見
40歳代	女性	素敵なお湯の温泉にゆっくり入れなかったのが心残りなので、また入りに行きたいです。トカラ列島の島はそれぞれとても個性的なので、宝島以外の島にも行ってみたいです。
40歳代	女性	村の子供達は会うと笑顔で挨拶をしてくれて、うれしかったです。交流会のスチールドラムの演奏の時、あまり光があたっていなかったけど、ベースを演奏していた子供さんは力強く、リズムカルで、さすがベースをまかされるだけあるなと思いながら聞いていました。これからも頑張ってください。
50歳代	男性	2日間だけの滞在でしたが、非常に印象深い旅でした。
		皆既日食がなければ絶対訪れることがなさそうな島に滞在出来た事は、一生の思い出です。今回に関しては、たまたま十島村が皆既帯中心ということで、さまざまな苦勞をされたことと思います。
	皆既中の太陽は見られなかったが、旅行の質としては高かったと思う。個人的にはあそこまで行き届いていなくても良い(費用的にももう少し安く)とも思うが、ツアーとして参加者を募集するとなると妥当な線か。今回の準備から実施まで本か何かで出していただけると面白いのではないか。そこまで出来なくても村のホームページでアンケート結果など掲載されることを期待しています。	
	女性	今回のツアーは、皆既日食を見るという目的を持った人達ばかりなので、私もこの団体に参加して、みなさんマナーやルールをよく守る、後味のよい印象を持ちました。 これからこの島に観光に訪れる人が増えたとして、ゴミを持ち込んだり、自然を汚したり荒らしたりする人がいないことを願っています。 遠いのが難点ですが・・・。
60歳代	男性	日食ツアーなので、日食が成功したか、しなかったかが全てと言ってよいでしょう。その点で、悪天候だったことはとても条件が悪く、マイナスにイメージがなってしまう。
		日食は見られなかったが、村民の方々のもてなしがすごく伝わって、ツアーのあとすごく温かい気持ちになれたのはとてもよかったです！
70歳以上	男性	村民の方々の協力により、入浴・食事・トイレが快適にできた。歓迎・交流のイベント(音楽鑑賞・ビール・食事の提供)開催など心温まる場を作ってくださった。
		近畿日本ツーリストの係員が現地で丁寧に應對してくださったこと。優しい心遣いの数々に深く感謝します。

4. モニターツアー参加者アンケート調査自由意見

モニターツアー参加者の自由意見については、以下の通りとなっている。

性別	年齢	自由意見
女性	19歳以下	とても楽しかったので奄美の人にもこの島のことを教えてあげたい。
	19歳以下	宝島、とってもきれいで住みたいと思いました。店とかは物価が高いし、その辺は不便ですけど、老後に住みたい。また、来たいです。ヘビ？トカラハブ？を殺していたのがとても印象に残ってます。一匹500円も面白かったです。
	20歳代	1泊2日で12,800円と安く、とても良かったと思います。以前から来てみたいと思ってましたが、名瀬から十島村に行く場合は、1週間近く滞在しなければならないので無理でした。今回はモニターで1泊2日で来られたので良かったです。
	20歳代	今回のツアーは、計画や日程についてはとても良かったと思います。1日目は、すごい雨で、残念でしたが、十島村の人の温かさがとても伝わり自分にとってとても充実した1泊2日でした。そして、もっと奄美の人にこの島を知ってほしいです。私はもう1人の同伴者の方に誘われ、この島のことを知ったので。そして、もう少し十島村の人たちが住みやすい島になってほしいです。交通など。本当にツアーの企画の方々、ありがとうございました。
	20歳代	初めての土地でたくさんの経験をしてとても楽しかったです。牛の放牧場は車から降りて見たかったです。安全面での考慮もあるかもしれませんが、スチールドラムの演奏を初めてききましたが、とても素敵で感動しました。
	30歳代	交流会も楽しかったです。子供達の演奏、素敵でした。
	30歳代	港の乗り降り(名瀬港)が大変。乗船、下船の港が違うのはありえない。名瀬港の駐車場の整備、いつでも車がとめられるようにしてほしい。バスを港まで走らせるべき。ツアーにするならどこかに駐車場を確保するか、送迎すべき。ツアーのスケジュール等もっと詳細に告知して、募集すべきでは。保険代がかかることを後から知らされた。前もって明示しておくべき。添乗員はリーダーシップをとるべき。雑用係なのか分からない。
	30歳代	日常を離れ、気分転換の一泊旅行として、価格、距離的にもトカラ列島はちょうど良い。また、違う島もツアーがあれば行ってみたいと思った。オプションの釣りでは、釣れた魚をどうしていいか分からなかったの、民宿に協力して頂いて、料理して食べることができたりしたら、さらに盛り上がるかなと思った。フェリーに乗る前に島民の方から頂いたはがきに心がこもっていて嬉しかったです。
	40歳代	以前から、十島村に観光に行ってみたかったものの、船の便の悪さ等で行けずにいましたが、今回、新聞広告を見て、日程の良さ、料金の安さ、添乗員さんが一緒だということですぐに申し込みました。一緒の民宿に泊まった方々、島の方々とふれあいがもてたことが一番良かったと思います。ただ、ひとつ、島の地図ではなくて、分かりやすい目印入りの観光マップ(大体の距離も入っている、A4サイズ一枚)をいただけるとありがたいと思います。そして、このアンケートも、前もって渡しておいて頂ければ(船に弱いので)。今回のツアーに参加できて、本当に良かったです。ありがとうございました。又他の島のツアーも楽しみにしています。
	40歳代	自然豊かで感動することが多々あり、楽しい2日間を過ごすことができました。若者には1~2泊で充分との声が聞こえるかもしれませんが、老後の保養には最高の地だと思います。今後観光に力を入れ、保養施設等が出来れば是非利用したいなと思います。つり客、温泉目的の利用者もおられると思います。島民の皆様の温かいおもてなしがとても心が和むひとときでした。
50歳代	宝島の名産といえば塩しか知りません。塩作り体験(もしくは見学)を入れてほしいと思います。魚釣りツアーが一番かと思っています。	

性別	年齢	自由意見
男性	20歳代	宝島のツアー自体は満足だったが、ななしまの揺れは慣れている人でもつらいと思う。
	20歳代	とても満足なツアーだったと感じております。鹿児島～トカラ(十島村)～奄美間の航路が充実(便数の増加等)し、各島へのアクセスが向上して訪問が出来やすくなればと思っています。
	30歳代	12年間中学校の教員をしていた。今年4月から埋蔵文化財関係の仕事についた者です。離島を抱える鹿児島県にとって、離島での教育(仕事)は2回のノルマがあります。離島だからこそ味わえるもの(アピール)をもっと増やしていくこと。利用しやすい状況(価格など)は、行政に働きかける必要があるのではないのでしょうか。
	30歳代	子供たちのスチールドラム演奏は感動した。何か新しいものを作るのではなく、島の人々との交流、ふれあいの場を充実させていくことが大切な気がする。目に見えるものでなく、人の温かさ、思いやりの心、そして、風、虫、鳥の音が、来る人を癒してくれると思いました。
	30歳代	トカラの島々やフェリーとしまには魅力がいっぱいあるのでツアーを開いた事はとても良い。しかし、南海日日には載っていて、奄美新聞を購読している自分はたまたま飲食店で読んだときに(南海を)知ただけで告知の仕方に課題が多い。また、ツアー申し込み問い合わせ以降のエーストラベルの対応がかなり雑だった。「席が空いています」と言われたのに、人が変わると「埋まっています」となって、日程を変えざるを得なかったり、枚挙にいとまがない。夜に交流会があるのは良かったが、そういう日程もしっかり伝えてもらいたい。また、何のモニターなのか、初めははっきりしなかった。もし、今回の事業がうまくいけば、名瀬の港において、十島航路の位置づけをはっきりさせるべきだった。どこの岸壁を使うのか、新港なら大島支庁とも連携をとって、駐車場を使えるようにするとか、入舟町からバスを走らせるとか、(古仁屋、笠利からあるとなおよい)そもそも標識、ガイドブック等において、しっかり見せる。地元奄美のマスコミ(FMや新聞、フリーペーパー等)にも周知させるなど打つべき手は山ほどある。是非頑張ってもらいたいです。
	30歳代	悪天候にたたられたツアーになってしまった。やはり、この時期は荒れることが多いようなので、春から夏の終わりに企画すべきなのではないかと思う。島内観光をもっと体験できるものを取り入れたらいいと思う。塩作りとか。島の人と話ができてよかった。いろいろな問題があったりするけど、島の暮らしがいいと考えていることがわかったからである。
	40歳代	とても素晴らしいツアーだったと思います。とくに子供たちの歓迎のイベントには感動いたしました。奄美～宝島間の週増便は、とても大きな意味があると思う。観光だけでなく、島民の生活の(医療、教育等)つながりを大きくさせて活性化していくべき。また、奄美～宝島間の航路時間や現状などもっと奄美の人々に伝えることが大切。もっと多くの人々にツアーに参加してもらえるよう、継続してほしい。ありがとうございました。
	50歳代	夜、9:00までの乗船(名瀬から)で少しバタバタしました。私だけかもしれませんが、10:00頃までだとゆっくりできたのですが。
	50歳代	また、お願いします。金・土・日の2泊3日があれば嬉しいです。
	50歳代	露天風呂(温泉)を作ってほしい。道路の整備。ハブを減少させ安全な島に。魚釣りなど海での楽しみ方を増やす。奄美で2社への新聞広告を出す(月1万～2万程度)。としま丸の週2回の定期運航。魚つりとコミュニティセンターでの歓迎会が楽しく、感激しました。やさしく素朴な人柄が最高でした。再度必ず来たいと思います。
	60歳代	フェリー「としま」だけを利用した。十島村観光は不便なので、島々間のオプションツアーを計画してはどうか。特に宝島と小宝島。
	60歳代	宝島のみ、拡大地図(集落の民宿、郵便局、学校、病院等、道路の→行き)の標示等)
	60歳代	この時代にツアー客のために子供達の発表や懇親会など開いてくださる集落が日本全国でどこにあるでしょうか。感謝、感謝。期待→特産品の開発
	70歳以上	観光に交流も最高でした。特に釣りが楽しめたことが、自分が一番でした。
-	70歳以上	体力的にちょうど良いスピードでのんびりと観光が出来てとても良かったです。夜の交流会も楽しかったです。初めてのドラム缶の曲も聞け満足です。

5. 奄美大島事業所アンケート調査自由意見

奄美大島事業所の自由意見については、以下の通りとなっている。

自由意見
宝島のお客様の電話注文により、商品を発送することがあります。まだ、直接十島村に行ったことはありません。もう少し、便利になれば行きたいと思います。
高速道路の無料化が叫ばれている現在、離島(特に十島航路)の運賃は無料にするくらいの施策があっても不思議ではありません。村の一つの島を中国の別荘地に売り出したら国も慌てふためくと思います。離島が、人あって日本の領海を守っているのだから、地方の主権を主張してもと思います。
奄美からは近くて遠い島とされている十島村各島へは、現在の運航体制では行きたくても行けないのが現状であり、今後観光面や十島村島民の生活面などを考えると、週2便体制の必要性が高いと思われます。十島村には奄美出身者もおられ、奄美との交流により両島にプラス面が多々出てくると思います。今後、奄美島民ならびに奄美へ来島された観光客が簡単に十島村へ渡れるような船舶の起用、運航体制、受入体制、施設整備の改善検討により、人的交流、物流も盛んになってくるのではないかと思います。補助航路がゆえの料金等の高さのため、燃料を使って運航していても、上り便への貨物、車輛等を積めていないことは、非常にもったいないと思います。船舶の利便性を高め、利用しやすい運航、料金設定を目指してほしいと思います。
十島航路を活性化するには、人、物流を多くする。その為には、観光を柱に特産物の開発に力を注ぐのが第一ではないかと思います。
まだ荒らされていない、夢の島のイメージがある。交通体系を整えて、もっと広報が必要なのでは。
奄美航路にも言える事ですが、十島航路の役割は人、物の流れを、鹿児島～奄美間の全ての島をターゲットとし、特に、屋久島・種子島の2島を寄港する便があると、かなり魅力のある選択の多い航路になるのではないかと。奄美から北の近い島々でありながら、なかなか訪れる機会の少ない島々になってしまっている。
観光用の大きな看板を目立つところに設置した方がよいと思いました。名瀬から船が出ているので「どんなところかな?」と思い、一度行ってみたいと思っていますが、きっかけと時間がないので、なかなか実現できません。
奄美大島には温泉がありません。3時間くらいで行けるなら一度行ってみたいと思います。宿泊施設があるのでしょうか。出来ることなら2泊3日くらいがいいですね。
一度、行きたいと思っておりますが、2泊3日は年に2～3度で予定をあわすことが出来ません。もっと、情報がほしいと思っております。このアンケートはとても重要で嬉しいものでした。ありがとうございます。
若者を呼び込むことが一番。船はこのままでもよいと思うが、便数がほしい。情報発信が必要。何も無いというのも売りになる。時間が止まっている感じがいい。各島の頂上に遠くからでも見える、ここは何島とわかるような看板があったら面白い。レンタサイクルは電動がよい。中国製の良いものがあります。レンタカーは国産の電気軽自動車。自然を売り込む。釣り、潜り、奄美よりも有望だと思います。あとはやる気です。
十島には一度は行ってみたいと思っているけど、定期航路だと1泊2日もしくは2泊3日での旅行ができない。
フェリーとしまが名瀬港に停泊しているのを時々見かけますが、出港時刻、日時は初めて知りました。これからは航路を宣伝PRすることが必要ではないかと思います。予算があれば、鹿児島港で大手旅行会社関係者を招いての船内での十島村各島々の説明(歴史、文化、住民の暮らし、観光等)し「フェリーとしま」をもっと知っていただく方法を取ることが大切ではないかと思います。体験乗船していただくことも良いのでは。7月の皆既日食では悪石島はマスコミに大きく取り上げられ、知名度が上がったことは良かったと思いますが、今にして思えば、皆既日食だけが表に出て、地元住民の大切な航路の問題(船の紹介を含む)、他の島々のPRがされていなかった気が致します。各島々にセールスポイントとなる物をつくり島を回るツアー(一体となって島をつなげた旅行企画)を提案したら良いのでは。この資料だけでは詳しい事はわかりませんが、各島々の入出港時間に問題があり名瀬港発は早いのであれば、途中の島で1泊し、地元住民、観光客が利用しやすい時間帯への変更も考えるべきでしょう。地域公共交通機関として発展することを願います。
宝島の方から時々ブロックの注文があるので、利用しています。個人的には一度、是非、行ってみたい所です。
一度は周遊してみたい島々です。歴史的につながりの深い笠利地区との連携を強化すべきと考えます。特に歴史、文化の観光は根強い人気があり、息の長い観光に発展するため、日本のルーツをたどる「道の島の歴史」をアピールすべきと考えます。イベントもいろいろできそうです。

6 十島村民ヒアリング調査

村民による十島航路の利用実態、十島航路等に対する意見・要望、観光振興等に関する意見を把握するため、各島の村民を対象にヒアリング調査を実施した。以下、調査結果を整理している。

(1) 口之島

十島航路の利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市内に行かなければならない緊急の用事が発生した場合、「奄美大島空港」から航空機を利用するため、奄美方面に行くことはある。しかし、そのような場合は1年間の内で1回あるかないかである。
十島航路等に対する意見・要望	<p>ア) 十島航路の運航形態等に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口之島において、名瀬便増便のメリットは薄く必要性を感じない。一方、諏訪之瀬島以南の村民の視点で考えれば、名瀬便増便は必要と考えられるため、名瀬便増便には反対しない。但し、増便によるコスト全額が村の負担になるのであれば反対。 ・週3便運航にしてほしい。 ・牛のセリに合わせた(毎月上旬)運航にしてほしい。 ・盆、正月、ゴールデンウィークなど繁忙期に増便してほしい。 <p>イ) フェリーとしまに関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船内に食堂以外の大広間を設置してほしい。 ・船内客室の空調温度を旅客の意向に合わせて柔軟に調整してほしい。
観光振興等に関する意見	<p>ア) 皆既日食ツアーに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆既日食ツアー客を26名受け入れた。 ・ツアー客の受入れとして、住民主体のオプションツアーの企画・実施、島内の清掃活動等を行った。 ・受入れで苦労した点は特になかった。しかし、もっとも恩恵を受ける民宿などの宿泊施設関係者が積極的に受入れ活動に協力しなかった点が不満であった。 <p>イ) 口之島の魅力等に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口之島の水芋を使用したコロッケが絶品 <p>ウ) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名瀬便増便により、十島村の小中学生と奄美の小中学生の交流が増加する可能性は低いのではないか。十島村は鹿児島市内の小中学生との交流を考えているのではないか。

(2) 中之島

<p>十島航路の利用実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・村民は十島航路の発着に合わせた生活をしており、鹿児島方面へ利用することがほとんどである。 ・名瀬便を利用する場合は、東京等へ行く場合。その日のうちに東京に着くことができるため、名瀬便を利用することがある。 ・高齢者が増加しており、荷役作業が出来る男性が少なくなっている。(荷役作業の定年は70歳。当番制となっている。)
<p>十島航路等に対する意見・要望</p>	<p>ア) 十島航路の運航形態等に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名瀬便が増便になれば便利になると思うが、運航経費が増えることが心配である。 ・名瀬便の増便についてはあまり関心がない。むしろ、鹿児島市内への運航時間が短縮されることの方に関心がある。 ・現金収入の増加を図るために、航路をもっと活用すべきである。現金収入がなければ、定住者は減少していく一方である。そのためには、観光振興も大事であるが、貨物を増やす方がより重要である。伊豆七島では、フェリーではなく、高速船と貨物船が行き来している。 ・レントゲン便のような運航で複数の島の魅力を体験できると良い。「トカラ列島島めぐりマラソン」のような運航形態を増やしてほしい(船を活用したイベントの実施)。
<p>観光振興等に関する意見</p>	<p>ア) 皆既日食ツアーに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆既日食の成功体験を島の持続的発展にいかすための取組みを検討する必要がある。 <p>イ) 中之島の魅力等に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市から7時間かかるが、他島に比べて居住の条件は良い。温泉や水も豊富にある。 ・中之島では、ピワ、みかん、島バナナ等がとれる。 ・歴史民俗資料館、中之島天文台を情報発信拠点としてもっと活用する必要がある。 <p>ウ) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に向けて、島ごとにある住民組織を活用した方が良い。元気な高齢者や女性が存在しており、それらの人々に協力を求める必要がある。 ・十島航路の運航に合わせて、魚をゆうパック(クール便)で東京、名古屋に送っている。鹿児島の漁協に出すこともあるが、価格が安く採算に合わない。はらわたを出して、頭と尾ひれを切る程度の加工を行い、新鮮な状態で送ると良い値段になる。そのような販路を持たなければ、島での漁業は継続するのは難しい。

(3) 平島

<p>十島航路の利用実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島方面に行くために十島航路を利用する 경우가ほとんど。 ・利用頻度は各自でそれぞれであるが、2~3 ヶ月に 1 回程度で利用している。一方、畜産業を営む者は、牛のセリのために毎月利用している。 ・平島から奄美方面に行く人は少ない。奄美方面に行くのは、急患が発生した場合や、鹿児島へ行く必要に迫られた場合のみである。
<p>十島航路等に対する意見・要望</p>	<p>ア) 十島航路の運航形態等に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平島は十島村の中間に位置するため、鹿児島側に向かう方が便利である。そのため、名瀬便が増便しても住民の利用可能性は少ないと考える。今後、名瀬便を増便する可能性としては、通院、車検などが考えられる。 <p>イ) フェリーとしまに関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1等客室、2等寝台の稼働率のアップを図るために、料金を見直す。 ・サロンの有効活用 ・船内のインターネット環境の充実
<p>観光振興等に関する意見</p>	<p>ア) 皆既日食ツアーに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆既日食では、上手く協力体制をとることができた。皆既日食のオプションツアーには、観測者 38 名の内、約半数が、トレッキングや釣り(堤防からの釣り)、リーフ探検(貝ひろい)に参加した。オプションツアーにおいて、地元住民 2 名と学校の先生 1 名が案内した。トレッキングでは奥山を散策。「千年ガジュマル」や「なごらん」を見学。「なごらん」はランの一種。釣りでは「グルクン」を中心に釣果があった。 ・観光振興については、島全体では受け入れたい方向にある。 ・観光客の受入れは、今後の雇用機会につながるため必要である。しかし、受入れのメインは民宿であり、観光客に接する機会が少ないため、観光案内などの需要について把握することは難しい。 <p>イ) 平島の魅力等に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平島では、釣りやバードウォッチングを目的とした観光客の滞在が多い。今後、バードウォッチングを目的とした観光客をターゲットとした受入に注力していきたい。 ・地元のイベントとしては、「夏まつり」、「十五夜」、「かせだうち(旧暦の 12 月 14 日)」、「福德神」などがあるが、観光客に見せるだけのもの出来るかが問題。 ・平島の特産品は燻製がある(かつぼれ、サワラ、トビウオ: がじゅまるの木で燻製)。また、「魚醤」づくりにも取り組んでいる。 <p>ウ) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ななしま 2」をチャーターした「クラブツーリズム」主催のツアーが年に 3 回程度あるが、港への接岸が困難で上陸機会は少ないようである。

(4) 諏訪之瀬島

<p>十島航路の利用実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島方面に行くために十島航路を利用することが多い。一方、奄美便は少ないため、ほとんど利用できない。 ・食料品は鹿児島市内からほとんど仕入れを行っている。また、生協へ注文も行っている。 ・毎月、上旬は牛のセリのため、鹿児島へ子牛を運搬している。奄美方面に運搬することはない。 ・諏訪之瀬島は奄美から 6 時間、鹿児島から 10 時間であり、鹿児島方面の方が遠いものの、鹿児島側からの物資の輸送が多い。
<p>十島航路等に対する意見・要望</p>	<p>ア) 十島航路の運航形態等に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奄美に親戚があり、奄美方面に帰省する機会があるため、名瀬便を増やして欲しい。 ・鹿児島方面への運航時間を短縮してほしい。 ・名瀬港でのフェリーとしまの乗船時間をもっと柔軟にしてほしい。現在は、出港前日の 21 時までに乗船できなければ、翌日 3 時からしか乗船ができず、困っている。 ・週 3 便で名瀬便が増便になることが理想であるが、諏訪之瀬島は住民が少ないため、定期航路の接岸回数が増加すると、荷役作業の負担が増加する。また、仮に定期航路が週 3 便になっても、現状では、物流の増加は見込めない。 ・補助航路である以上、自助努力をしていかないと国や県にも要望をできないのではないか。 <p>イ) フェリーとしまに関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船内の食堂の営業時間を 22 時より遅くしてほしい。
<p>観光振興等に関する意見</p>	<p>ア) 諏訪之瀬島の魅力等に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の食としては、トビウオ、ヤコウ貝、ヤギ汁がある。奄美では皮をむかずにヤギ汁を調理しているが、この島では皮をむくので臭くなくおいしい。但し、観光客向けにヤギ汁を提供する場合、奄美市内のと殺場で処理しなければならず、コストが合わない。 <p>イ) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内の案内は I ターン者が旅行会社と事前に契約して行うケースが多い。 ・若い人はキャンプをする方が多い。案内が必要なのは年配の方が多く。 ・島内の宿泊許容人数は約 35 名である。 ・I ターンして 5 年を超える世帯が 6 世帯ある。I ターンが長続きしない理由としては、生活基盤が確立できなかったり、島に馴染めなかったりすることが考えられる。 ・島内の公共工事はほとんど無い状況である。畜産業、水産業等で生活基盤づくりをしないと島での生活は厳しい。

(5) 悪石島

<p>十島航路の利用実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島外へ出かける頻度や目的は、人によって違いがあるが、共通していえるのは、行き先が「鹿児島市」であることと、「買物」を主目的として島外に行くことはほとんどないということである。島外へ出かける際は、通院や仕事、帰省など、どうしても本人（自分）が行かなければならない時に限定されている。 ・奄美方面に行くケースは稀である。但し、病気やケガをした際、ダイヤが名瀬便の時は、奄美大島の病院に行くことはある（青年団代表が手をケガした際、3ヶ月間奄美大島の病院に通ったことがある）。また、どうしても鹿児島に少しでも早く行かなければならない時に、奄美大島経由（奄美・沖縄航路あるいは航空機）で鹿児島に行くことがある。 ・買物については、基本的に鹿児島市内の各店（生協、村脇青果、平田商店、大野屋など）に電話注文するか、あるいは鹿児島市内に住む親戚等をお願いするなどして、船で送ってもらい、各人が船の入港に合わせて港まで取りに行く仕組みになっている。決済は、“判取り”という仕組みがあり、島内の出張所（コミュニティセンター）で手数料150円を払って決済をすれば、鹿児島港（南埠頭）での荷役業者（中川海運）を通じて精算されることになっている。但し、この仕組みは、鹿児島市内の店舗から購入した場合のみであり、奄美大島の店舗から購入する場合には使えない。同仕組みを奄美大島にも適用できるようにしてもらえるとありがたいとの意見があった（悪石島には郵便局がないため、為替等で送金するには面倒である）。なお、島間でも“判取り”の仕組みがあり、その際には出張所職員が対応してくれるため、手数料150円は不要となっている。
<p>十島航路等に対する意見・要望</p>	<p>ア) 十島航路の運航形態等に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪石島から名瀬まで時間的には鹿児島に行く時間の半分の所要時間で行ける。しかし、運賃を考えると、鹿児島に行く場合は往路の運賃が4割引となるため、往復で10,920円となるが、名瀬に行く場合は割引がないため、往復で9,220円となり、1,700円ほどしか安くない。奄美方面に行く場合にも割引制度を導入してもらいたい。 ・島内では車検を受けることができないため、鹿児島あるいは奄美に送らなければならない。航送運賃が奄美の方が半額で済むため、奄美に送るケースが多いが、車検の場合のみ、航送運賃を安くしてもらえるような仕組み（片道免除など）を考えてほしい。 ・運航ダイヤは現在一本化されているが、以前のように夏ダイヤ、冬ダイヤで設定してもらった方が利用しやすい。 ・名瀬港で乗船する際、現在21時から3時の間は乗船できないようになっている。また、鹿児島港でも22時以降でない乗船できない。もっと乗船できる時間を延長してもらいたい。
<p>観光振興等に関する意見</p>	<p>ア) 皆既日食ツアーに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入準備はとても大変だったが、島外者との交流を今後も続けていくことができればよいと思っている。 ・小中学校で子供達の交流会を実施した際に、ツアー客を招待した。予想以上に多くの客が集まり、大変盛況だった。このような取組みが今後もっと必要ではないか。 ・今後も、島内でイベント等を実施し、多くの島外者を受け入れていくとなると、

“水の確保”が最重要課題ではないかと感じた。

イ) 悪石島の魅力等に関する意見

- ・島内に飲食店がないため、すべて手作りのもの(母の味)を子供達に与えることができる。このことは教育上とてもいいことではないかと考えている。
- ・島でみる星空が最大の魅力。
- ・観光地化されていない島の自然と海のおいが魅力。島が観光開発されていたら逆にUターンしなかったかもしれない。
- ・豪快な釣り(特に夜釣り)が楽しめることが魅力だ(狙いは“ヒラアジ”)。なお、大物が釣れるといわれている島は、諏訪之瀬島、平島、宝島の順である。
- ・時間が自由であることとお金では買えないものがあることが最大の魅力。
- ・島の食については、さわらの燻製、タケノコ、ツワ、かっしゃもち(よもぎ)、島とうふなどがある。(タケノコについては、以前島内に加工場があったが、今はなくなっている。)

ウ) その他意見

- ・島には、「仕事をしてはいけない日」などが設けられており、島民と一緒にしなければならない作業などもある。Iターン者には、島民と一緒に島を良くしていきたいという思いを持ってもらわなければ、島での生活はうまくいかないと思う。
- ・ボゼ祭りなど島に伝わる伝統芸能も、Iターン者が少なかったからこれまで大事に保存継承されてきたのではないかと考えている。
- ・島内での仕事は、漁業、畜産(子牛の生産)、民宿経営、公共工事ぐらいである。なお、畑もあるが、そこで作る農作物はほとんど自家消費されるものぐらいである。漁業だけで食べてはいけないし、公共工事も近年かなり少なくなっている。子牛の生産も今は飼料費が高く、相場もよくないため、ギリギリの経営を余儀なくされている。

(6) 小宝島

<p>十島航路 の利用実態</p>	<p>ア) 行動パターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島方面に仕事で行くことが多く、年に 4~5 回利用している。 ・ 鹿児島方面には毎月 1 回、又は 1.5 ヶ月に 1 回行っている。目的は牛のセリのため。 ・ 鹿児島に行くのは 3 ヶ月に 1 回程度 (製塩、タンクレンタル、ダイビング等の用事) 。 ・ 奄美方面に行くのは、奄美大島空港から航空機を利用する場合や、緊急で買物に行く必要が生じた時のみ。 ・ 日常の生活物資は鹿児島市内の生協に注文し、届けてもらっている。 ・ 名瀬港経由で鹿児島に塩を出荷することはある (タイヨー、城山ストアーなどに出荷している) 。名瀬に出荷すると業者が引き取りにこないため、困っている。 ・ 島民の中には、判取り制度を利用している人がいる。判取り制度は、個人の商店を利用する場合に利用している。具体的には、島民 出張所員 中川運輸 商店 (米屋 (浜之上商店) 、野菜屋等という現金の流れになっている、手数料が 150 円必要) ・ 梅雨は南風が吹くため、接岸できないことも多い。
<p>十島航路 等に対する 意見・要望</p>	<p>ア) 十島航路の運航形態に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の先生の立場で考えると、土曜日、日曜日で奄美市内に行くことができるように運航形態が改善されれば、助かると思う。 ・ 民宿にとって、名瀬便増便は奄美大島からの観光客の増加が期待できるので良い。 ・ 現在の村民の利用状況から勘案すると、宝島便全便を名瀬便にした場合、採算性が厳しいのではないかと。宝島便を月 1 回だけ名瀬便に変更し、金曜日の鹿児島発名瀬便と上手く接続させる運航ができれば良い。現在の運航形態のままで、名瀬便のみを増便しても (現在の奄美市内の滞在時間は、16 時 30 分から 21 時まで (ホテルシップとして乗船できる時間) に限定されている) 、住民が奄美大島方面に行く機会が増加するとは考えにくい。 ・ 鹿児島への所要時間の短縮化を希望している。 ・ 定期航路の運航が増便になった場合、人口の少ない小宝島では荷役作業が負担になる点が問題となる。
<p>観光振興 等に関する 意見</p>	<p>ア) 皆既日食ツアーに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日食観測者の受入れについては、無理なく受入れできた。具体的には、バーベキューや小中学生による歌で歓迎した。 <p>イ) 小宝島の魅力等に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小宝島の魅力は海。沖縄の海よりもはるかにきれいで、ダイビング、シュノーケリングが堪能できる。 ・ 小宝島の島豆腐を特産品にするのはどうか。 ・ 小宝島の魅力は海、星空、温泉。 ・ 「大淵」はシュノーケリングスポットとして良い。 <p>ウ) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島内の観光振興には、まず島民の意識が変わらなければ難しい。島民より I ター

ン者の方が島の将来に対する危機感を持っている。

- ・以前は、奄美に車検のために車輛を航送していたが、車検後に、車輛が故障することが続いたため、現在は奄美大島ではなく、鹿児島市内に車輛を航送し、車検を行っている。
- ・湯泊温泉は脱衣施設がないため、観光客は困る。
- ・村民以外がイセエビを獲ると、漁業権に触れる可能性がある。
- ・島内は仕事が少なく、現金収入を得られる機会が少ない。主な仕事としては、畜産、学校職員、発電所、製塩など。
- ・小宝島は人口が少ないため、学校の教職員も村民として重要な役割を担っている。
- ・小宝島には3件の民宿があるが、受入許容人数は25人程度
- ・十島村の自然を保護するため、入島料を導入することも検討した方が良い。
- ・小宝島には、「十柱(トガシラ)神社」として、島内に10箇所の神社があったが、高齢化が進み、現在では1箇所に合祀している。そのような神社を復活させるのはどうか。

(7) 宝島

<p>十島航路の利用実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奄美市内の鹿児島県立病院（眼科、歯科など）に行っている。土曜日は16時過ぎにしか行けないが、予約することで対応してもらっている。 ・島内商店が奄美市内から商品仕入れを行っている。 ・民宿は、食材の仕入れを鹿児島側から行うことが多い。（肉類は「肉の大野」、冷凍食品は「ヤマサフーズ」、水産物は「日高水産」など） ・鹿児島市内の生協に注文することもある。
<p>十島航路等に対する意見・要望</p>	<p>ア) 十島航路の運航形態に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・買物を目的に奄美市内に行くことは多く、住民の生活利便性を向上させるために名瀬便増便が必要。また、急に鹿児島市内に行くことが必要になった場合にも、奄美大島空港から航空機や奄美・沖縄航路を利用することが可能となる。
<p>観光振興等に関する意見</p>	<p>ア) 皆既日食ツアーに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆既日食観測者の受入れとして、小中学生によるスチールドラム演奏で歓迎をした。 <p>イ) 宝島の魅力等に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝島の魅力は海。世界中の海でダイビング経験がある観光客が、宝島の海に感動する。 ・釣り客にとって宝島は魅力的である。 <p>イ) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奄美大島には温泉がないため、十島村の温泉をもっとPRすべきである。 ・宝島の観光推進にはストーリーが必要である。例えば「ハネムーン」の島として宝島を売り出すのはどうか。（子供達による結婚式、記念の植樹など） ・奄美のCFM（コミュニティエフエム）のパーソナリティーに呼びかけて宝島を体験してもらい、ラジオの中でPRしてもらうのはどうか。 ・奄美の「観光ネットワーク奄美」と連携して、宝島へ集客できれば良い。しかし、受入れに関しては、継続的に実施を行うためにも、住民が中心となって受入れを行っていく必要がある。 ・宝島の食として、落花生入りの豆腐、ヤコウ貝の味噌漬けなどがある。 ・「親子のきずなを確かめるツアー」、「湯治場 in 宝島」などで、宝島を売り出すのはどうか。